

令和4年度

「UIJ ターン就職促進に係る企業、高校、大学等実態調査業務」

業務報告書

令和5年3月

浜松市産業部産業振興課

浜松市 UIJ ターン就職促進に係る企業、高校、大学等実態調査報告書

目次

第1章 全体概要	3
第2章 実態調査結果報告	5
I. 浜松市内高校	5
1. 実態調査概要	5
2. 実態調査結果	6
II. 静岡県内大学・浜松市内専門学校等	11
1. 実態調査概要	11
2. 実態調査結果	12
(1) 学生の状況について	12
(2) 就職支援状況について	13
3. ヒアリング報告	17
III. 静岡県外大学	19
1. 実態調査概要	19
2. 実態調査結果	20
(1) 静岡県外大学における学生の状況について	20
(2) 就職の傾向について	21
(3) 就職支援状況について	22
3. ヒアリング報告	27
IV. 浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生	29
1. 実態調査概要	29
2. 実態調査結果	31
(1) 希望する就職について	31
(2) 就職活動の内容について	37
(3) 「浜松就職・転職ナビJOBはま！」について	38
(4) 将来を含めた浜松市への就職意向について	39
(5) 浜松市への UIJ ターン就職時に希望する支援・取組について	41
V. 浜松市内企業就職者並びに UIJ ターン就職経験者	43
1. 実態調査概要	43
2. 実態調査結果	43
(1) 浜松市内勤務者の属性	43
(2) 浜松市内勤務者の就業状況について	45
(3) UIJ ターン実施状況について	47
(4) 「浜松就職・転職ナビJOBはま！」について	52

VI. 浜松市外企業への就職者	53
1. 実態調査概要	53
2. 実態調査結果	54
(1) 回答者の現在の状況について	54
(2) 勤務先の選択理由について	56
(3) 市内企業への就職活動について	57
VII. 浜松市内企業	59
1. 実態調査概要	59
2. 実態調査結果	62
(1) 現在の雇用者の状況について	62
(2) 新卒採用について	66
(3) 中途採用について	84
(4) 今後の採用活動について	89
(5) 「浜松就職・転職ナビJOBはま！」について	96
(6) 「浜松市奨学金返還支援事業」について	98
(7) 外国人材の雇用状況について	100
3. ヒアリング報告	104
第3章 まとめ	107
I. 浜松市内企業の雇用状況	108
II. 浜松市内就職者の状況	111
III. 新卒者における UIJ ターンの実態	112
IV. 中途採用者における UIJ ターンの実態	126
V. 浜松市への意見・要望	129
付録項目 調査票	付録 1

第1章 全体概要

本報告書は、浜松市への UIJ ターン就職の促進による若者の転入増加と、地元企業を担う人材及び労働力を確保するため、浜松市内企業並びに高校、進学先となる主な大学等、就職者を対象として行った調査結果に関する報告である。以下7つの調査を実施した。

1. 浜松市内高校実態調査
2. 静岡県内大学・浜松市内専門学校等実態調査（アンケート・ヒアリング）
3. 静岡県外大学実態調査（アンケート・ヒアリング）
4. 浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生の意識・実態調査（アンケート）
5. 浜松市内企業就職者並びに UIJ ターン就職経験者の意識・実態調査（Web アンケート）
6. 浜松市外企業への就職者の意識・実態調査（Web アンケート）
7. 浜松市内企業実態調査（アンケート・ヒアリング）

アンケート調査を主体に、主要項目について企業・大学を抽出してのヒアリング調査を実施した。アンケート調査で、幅広く情報を収集し客観的な実態を明らかにする一方、ヒアリング調査では、生の声や率直な意見を聴取することで、より現実的かつ具体的な実態を把握することを目的とした。

アンケート調査の集計のうち、市内企業に関するものは、適宜、業種別と従業員規模別に分け集計した。また、首都圏と中京圏の中間に位置する浜松市の地理的条件が、UIJ ターン就職を左右する決定要因の1つであるため、今回実施のアンケート集計では、必要に応じ、地域別に集計した。集計結果は、各調査別に順に記載し、最後に全体のまとめ及び分析を提示する。

（本報告書における用語の定義）

本報告書における用語の定義は、以下の通りとする。

- ・「浜松市内企業」 浜松市に事業所のある企業（本社・支社店・営業所・工場等問わず）
- ・「静岡県内大学」 法人本部が静岡県内にある大学
- ・「静岡県外大学」 法人本部が静岡県外にある大学
- ・「従業員規模」 正規社員及び非正規社員を合算した社員規模
- ・「首都圏」 東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県
- ・「中京圏」 愛知県・岐阜県・三重県
- ・「関西圏」 大阪府・京都府・兵庫県

（本報告書における調査対象について）

「浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生の意識・実態調査」（アンケート）については、「大学生」のみを対象、それ以外の調査に関しては、「大学・短大・専門学校」を対象とした。

第2章 実態調査報告結果

I. 浜松市内高校

1. 実態調査概要

(1) 調査目的

本調査は、UIJ ターン就職の促進による若者の転入増加と、地元企業を担う人材及び労働力を確保するため浜松市内高校から基礎的データを収集し、今後の事業施策に活用する事を目的に実施した。

(2) 調査対象

浜松市内の公立高校 17 校・私立高校 10 校、全 27 校。

(3) 調査方法

令和 4 年 7 月 27 日～8 月 30 日、郵送による配布、郵送及び Web 回答により調査を実施。

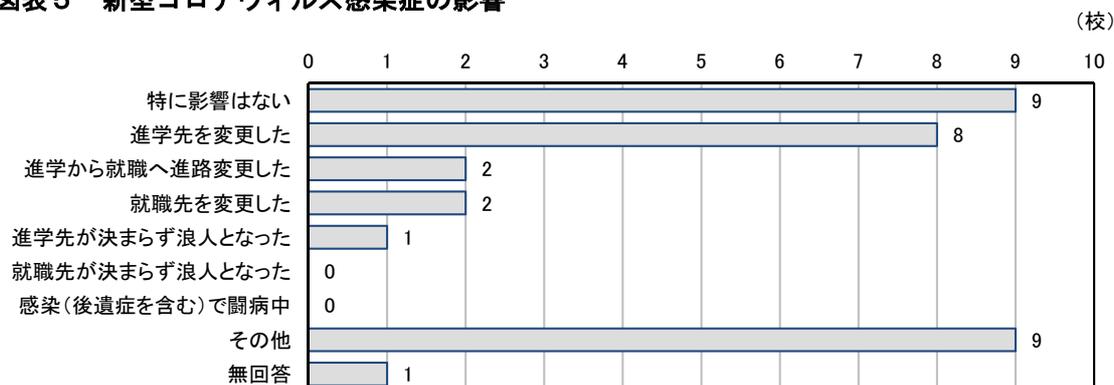
(4) 回収状況

郵送数 27 校、回収数 27 校、回収率 100.0%

●新型コロナウイルス感染症が生徒の進路に与えた影響について聞いた（複数回答）。

- 集計の結果、「特に影響はない」が9校で最も多くなった。「進学先を変更した」が8校、「進学から就職へ進路変更した」と「就職先を変更した」がそれぞれ2校あり、進学・就職にも影響が及んでいることがうかがえる。

図表5 新型コロナウイルス感染症の影響



- 「その他」の影響があったと回答した高校も9校あったが、「なかなか進路先を決めることができない」、「進学希望者が増えた」、「保護者意識が近県への進学を後押しした」、「県内志向が強まった」、「県内、あるいは愛知県の志望者が増えた」、「進学希望者が増加した」、「オープンキャンパスへの参加、内容の制限」、「再受験が増えた」、「専門学校への進学者が増えた」などの回答があった。

Ⅱ. 静岡県内大学・浜松市内専門学校等

1. 実態調査概要

(1) 調査目的

本調査は、地元就職の促進と地元企業を担う人材及び労働力を確保するため、静岡県内の大学及び浜松市内の専門学校等から基礎的データを収集し、今後の事業施策に活用することを目的に実施した。

(2) 調査対象

静岡県内にキャンパスを置く大学・短期大学（高等専門学校 1 校を含む）21 校と浜松市内専門学校 23 校の全 44 校。

(3) 調査方法

令和 4 年 9 月 13 日より令和 4 年 10 月 12 日、郵送による配布を行い、郵送及び Web 回答により調査を実施。

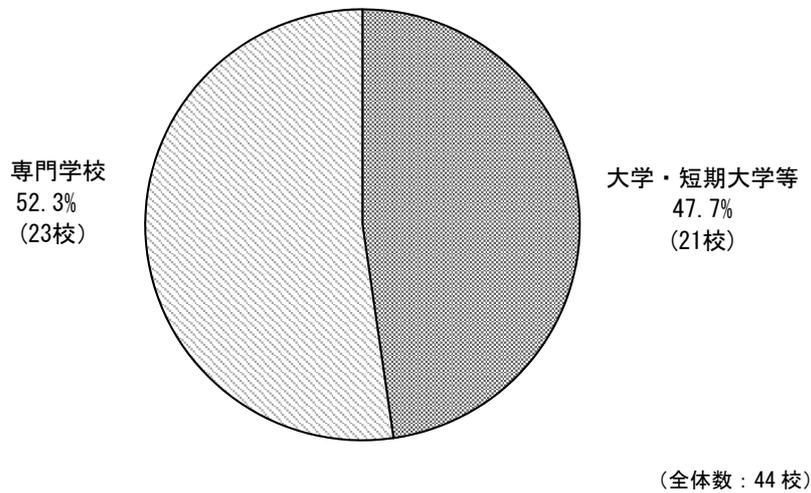
(4) 回収状況

郵送数 44 校、回収数 44 校で、回収率 100%。

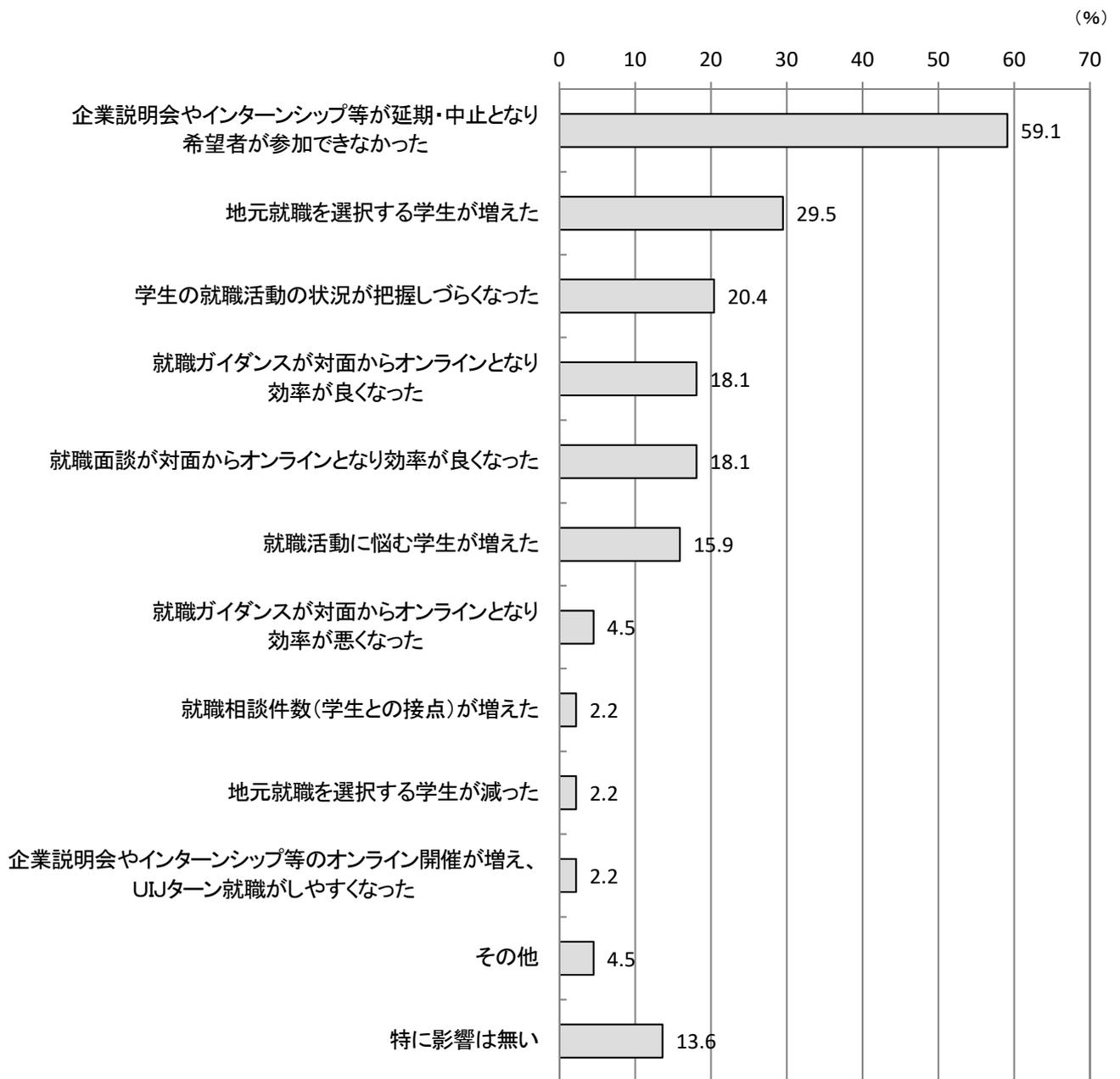
(5) 属性

大学 21 校（短期大学・高等専門学校を含む）、専門学校 23 校

図表 1 大学・短期大学等及び専門学校の割合



図表6 新型コロナウイルス感染症による影響（複数選択可）

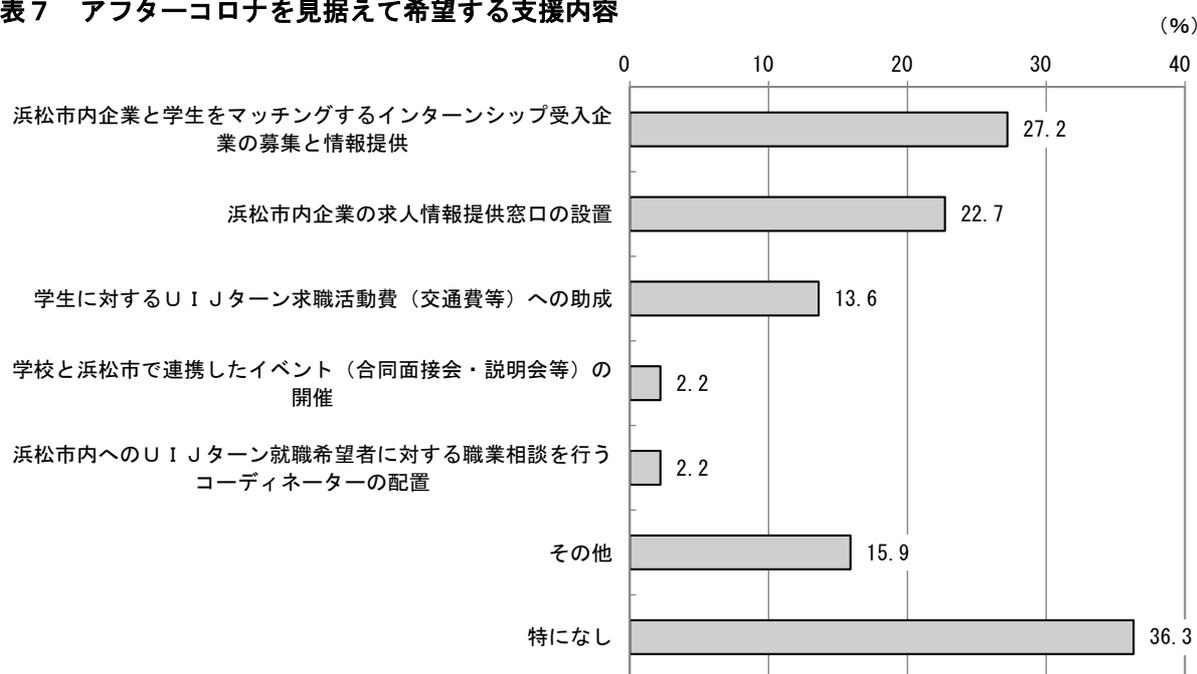


(全体数：44校)

●アフターコロナを見据えた就職支援の希望

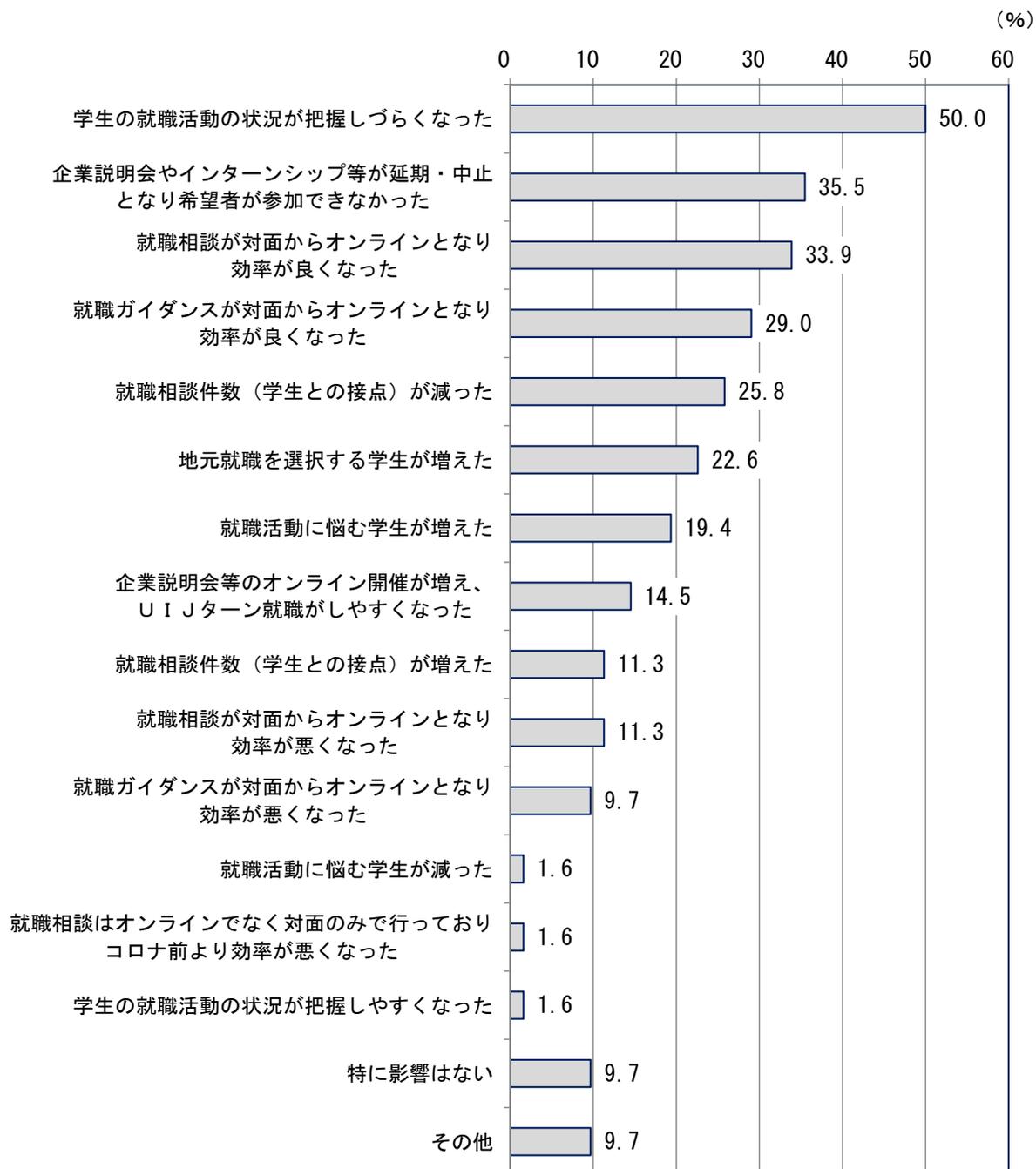
- 各校が希望するアフターコロナを見据えた就職活動の支援内容は「浜松市内企業と学生をマッチングするインターンシップ受入企業の募集と情報提供」(27.2%)が一番多く、インターンシップを重要視する傾向が伺えた。次いで「浜松市内企業の求人情報提供窓口の設置」(22.7%)、「学生に対するUIJターン求職活動費(交通費等)への助成」(13.6%)が多かった。「その他」に関しては、「中小でも安定した企業の採用情報」、「活動早期化への歯止め」、「幅広い情報提供」などが挙げられた。
- 「静岡県外大学」の調査では、アフターコロナを見据えた就職活動支援の希望としては「学生に対するUIJターン求職活動費(交通費等)への助成」(45.2%)と最も多く、次いで「浜松市内企業と学生をマッチングするインターンシップ受入企業の募集と情報提供」(37.1%)、「浜松市内企業求人情報の提供窓口の設置」(16.1%)の順となった。

図表7 アフターコロナを見据えて希望する支援内容



(全体数：44校)

図表6 新型コロナウイルス感染症が、令和3年度中の就職支援に与えた影響
(複数回答)

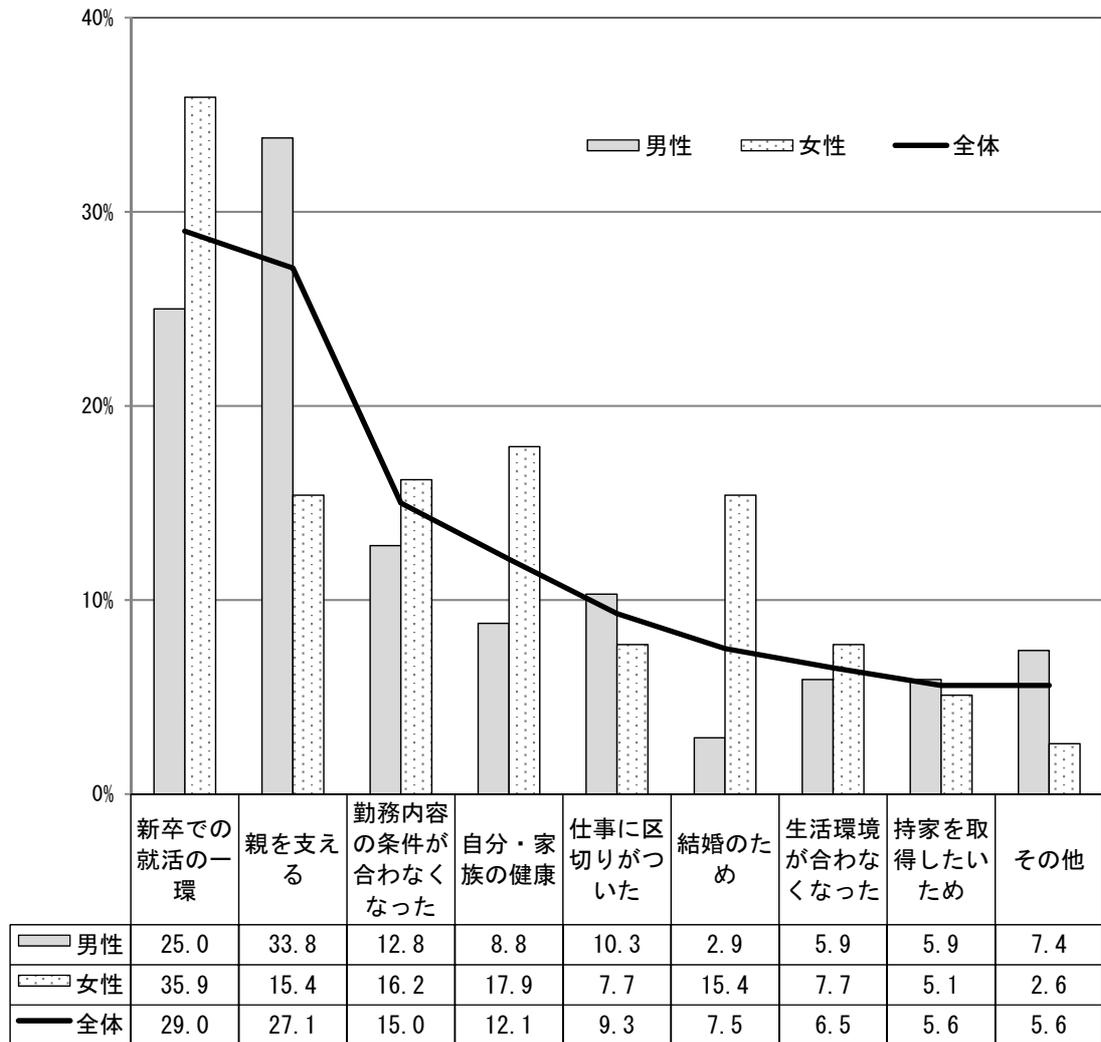


(全体数：62校)

● UIJターン就職を行った理由

UIJターン就職を行った理由は、「就職活動の一環として」(29.0%)の割合が最も多く、次いで「親を支えるため」(27.1%)、「勤務時間・給与・通勤等の勤務条件が合わなくなった」(15.0%)が続く。なお、平成27年度と比較して上位2つ「新卒での就職活動」と「親を支える」は変わらないが、3番目に健康問題に代わり「勤務内容が合わなかった」が増加した。

図表5-1 UIJターン就職を行った理由(性別・複数回答可)

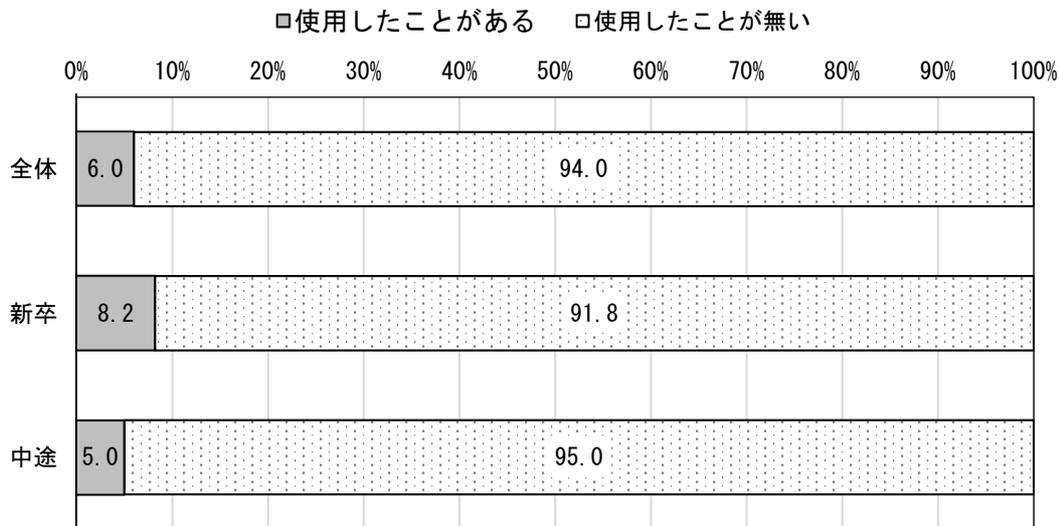


(全体数：200人、男性100人、女性100人)

(4) 「浜松就職・転職ナビJOBはま!」について

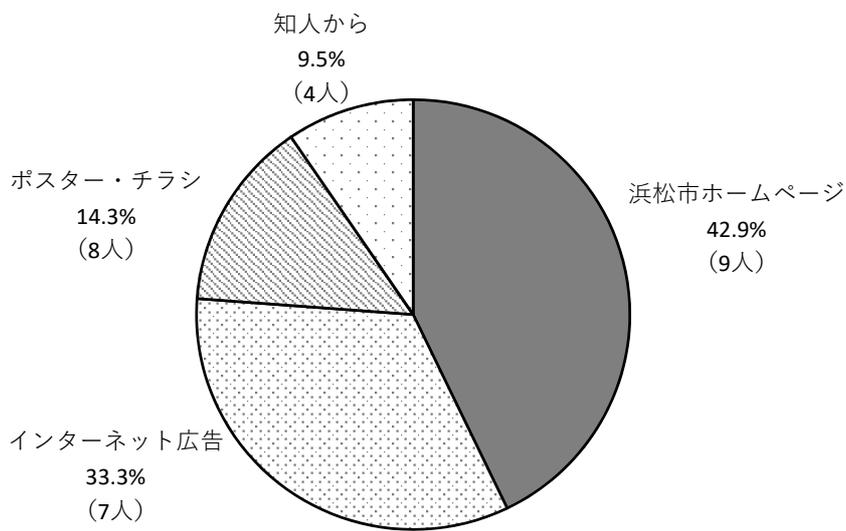
「浜松就職・転職ナビJOBはま!」を利用したことがある人の割合は全体の6%であった。平成27年度調査でも6%であり、変化はなかった。また、「JOBはま!」利用者の42.9%が浜松市のHP、33.3%がインターネット広告を見て利用した。

図表 8-1 「浜松就職・転職ナビJOBはま!」利用状況



(全体数：200人)

図表 8-2 「浜松就職・転職ナビJOBはま!」の利用経路 (複数回答可)

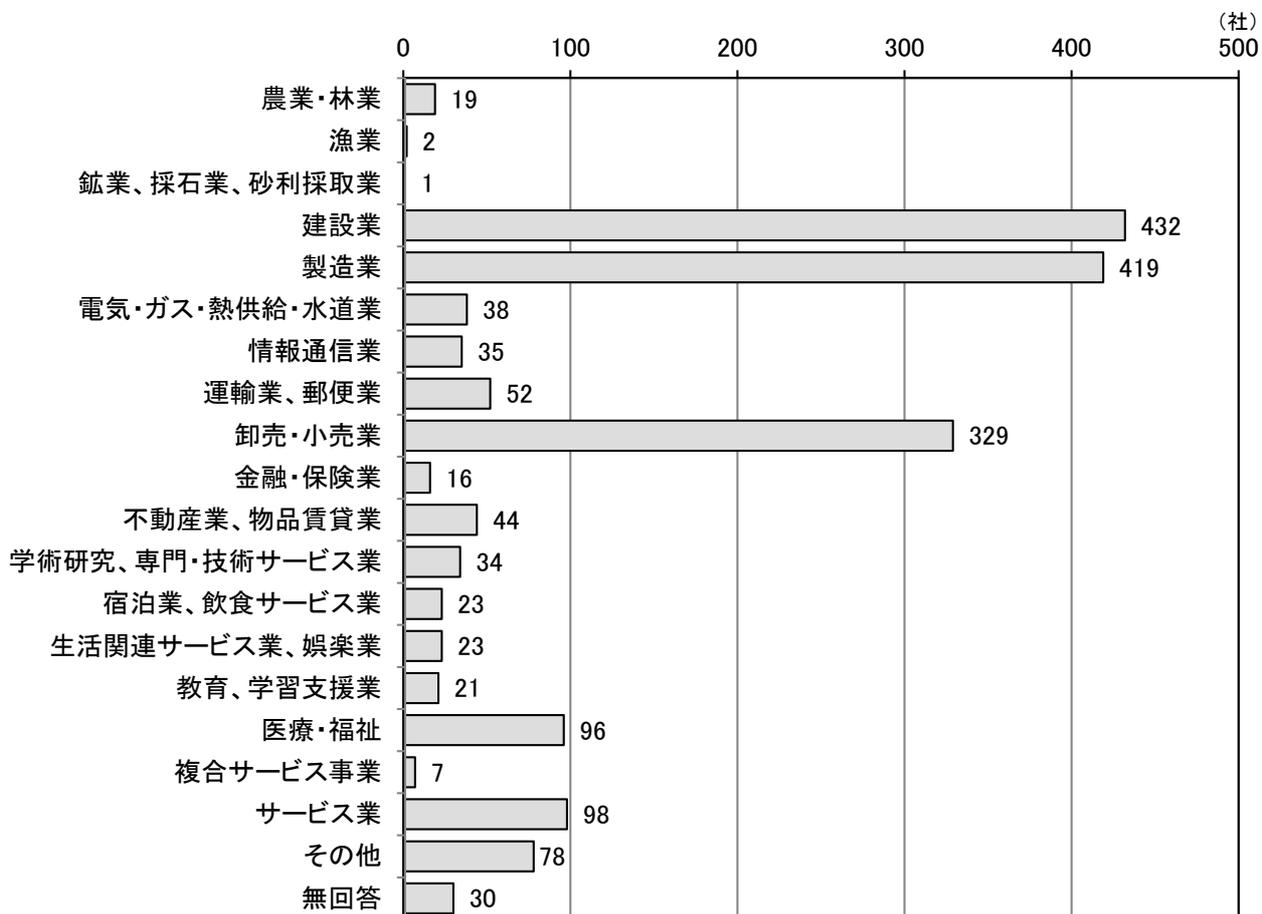


(全体数：12人)

(5) 属性

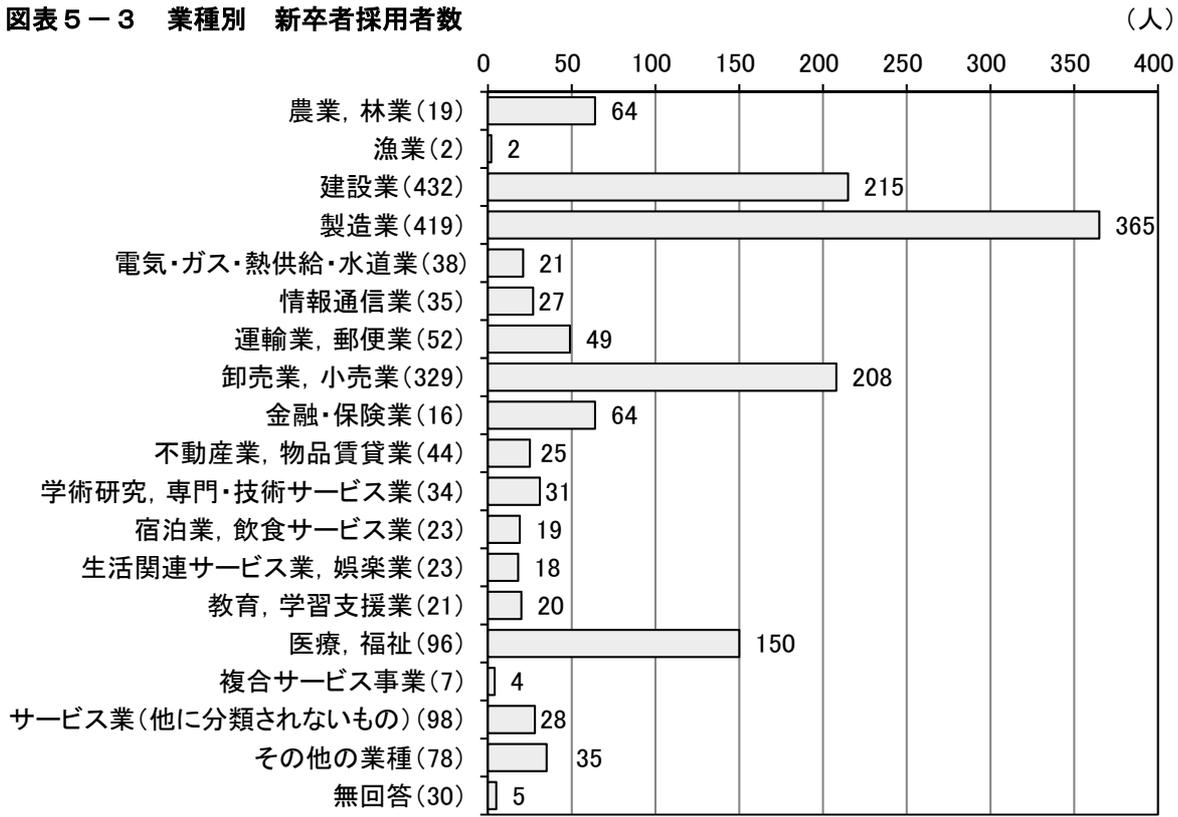
調査回収企業の属性は次の通りである。

図表 1 - 1 業種別



(全体数：1,797 社)

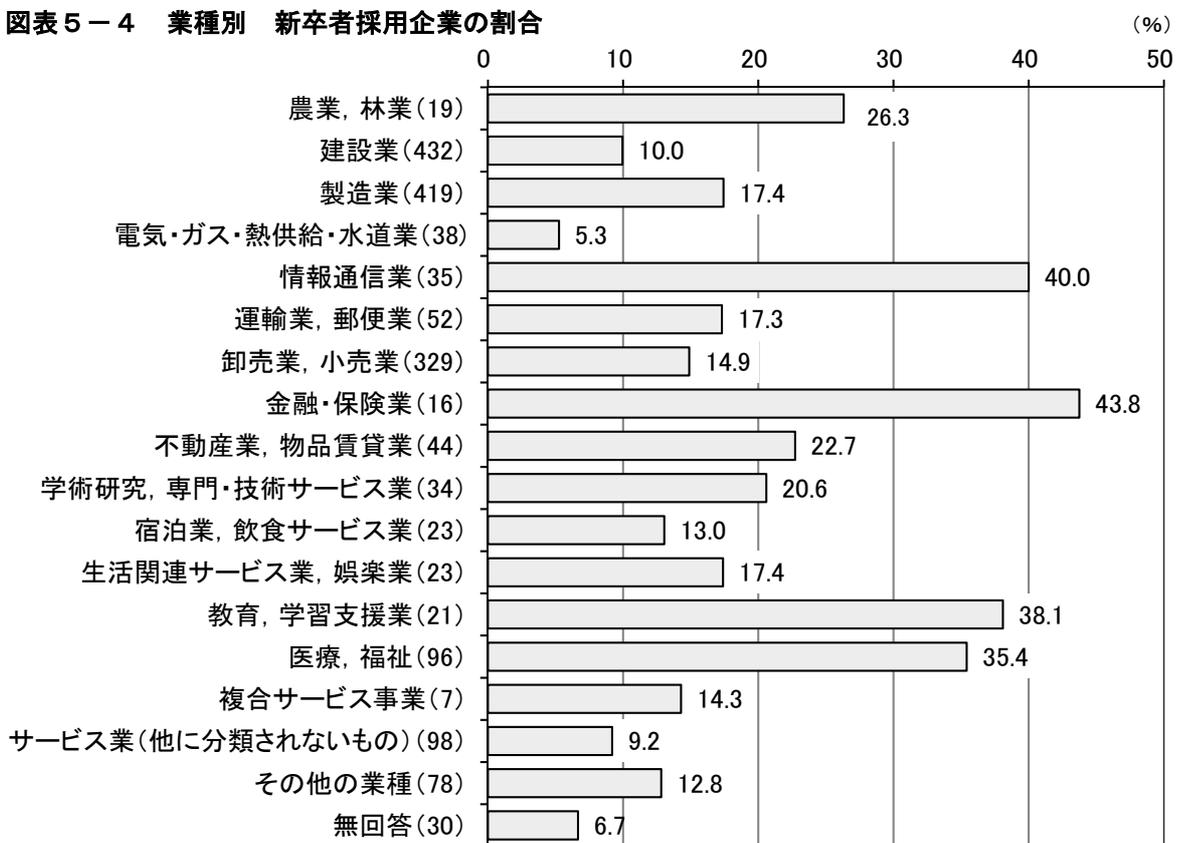
図表5-3 業種別 新卒者採用者数



(社)

(全体数: 1,350人)

図表5-4 業種別 新卒者採用企業の割合

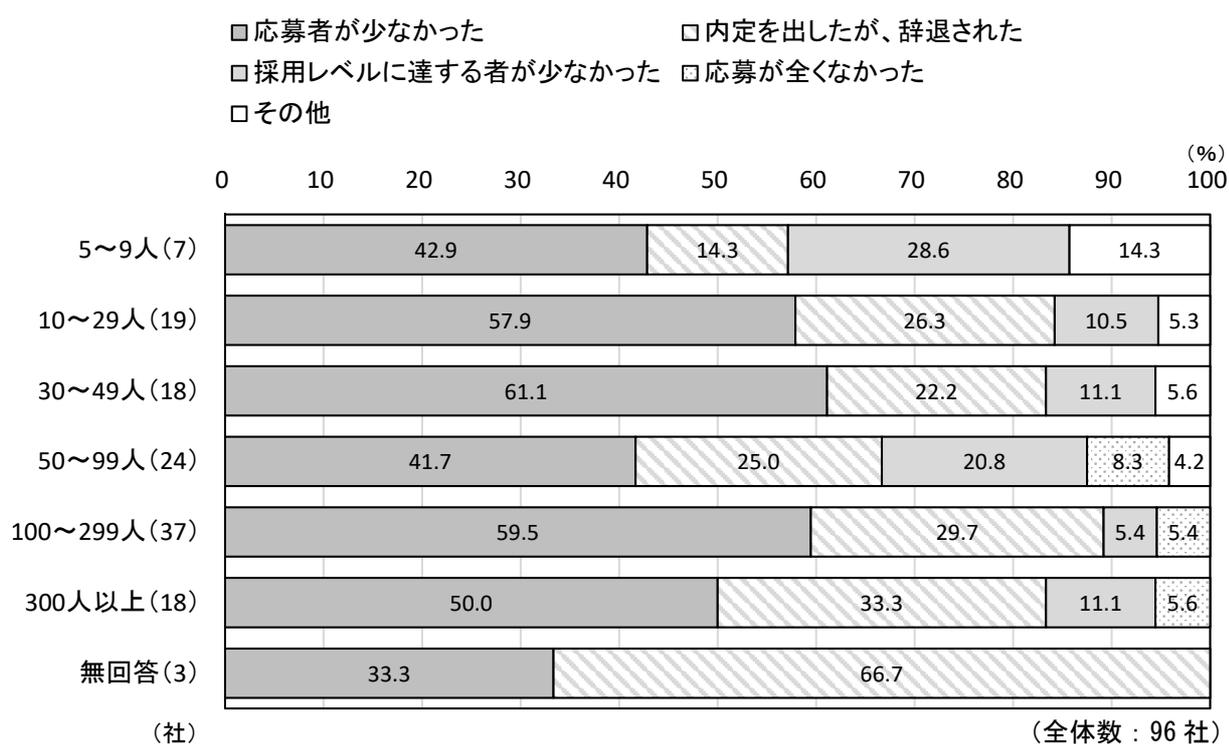


(社)

(全体数: 1,794社)

※回答数2社以下の業種を除く。

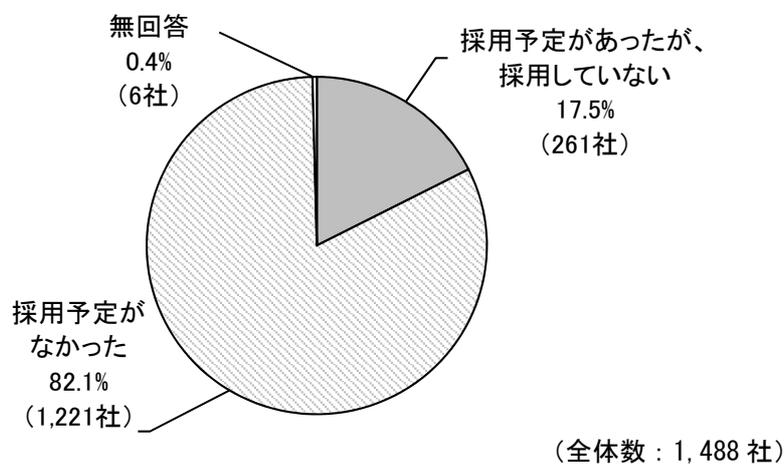
図表8-3 従業員規模別 新卒者が充足しなかった理由（複数回答）



●令和4年4月に新卒者を採用しなかった理由

- 令和4年4月に新卒者の採用がなかった理由としては、「採用予定がなかった」（82.1%）、「採用予定があったが、採用していない」（17.5%）となっている。
- 「採用予定があったが、採用していない」を業種別で見ると、「医療・福祉」（30.6%）の割合が最も高く、「学術研究、専門・技術サービス業」（29.6%）が続いている。
- 「採用予定があったが、採用していない」を従業員規模別で見ると、「100～299人」（39.5%）で最も高くなっている。

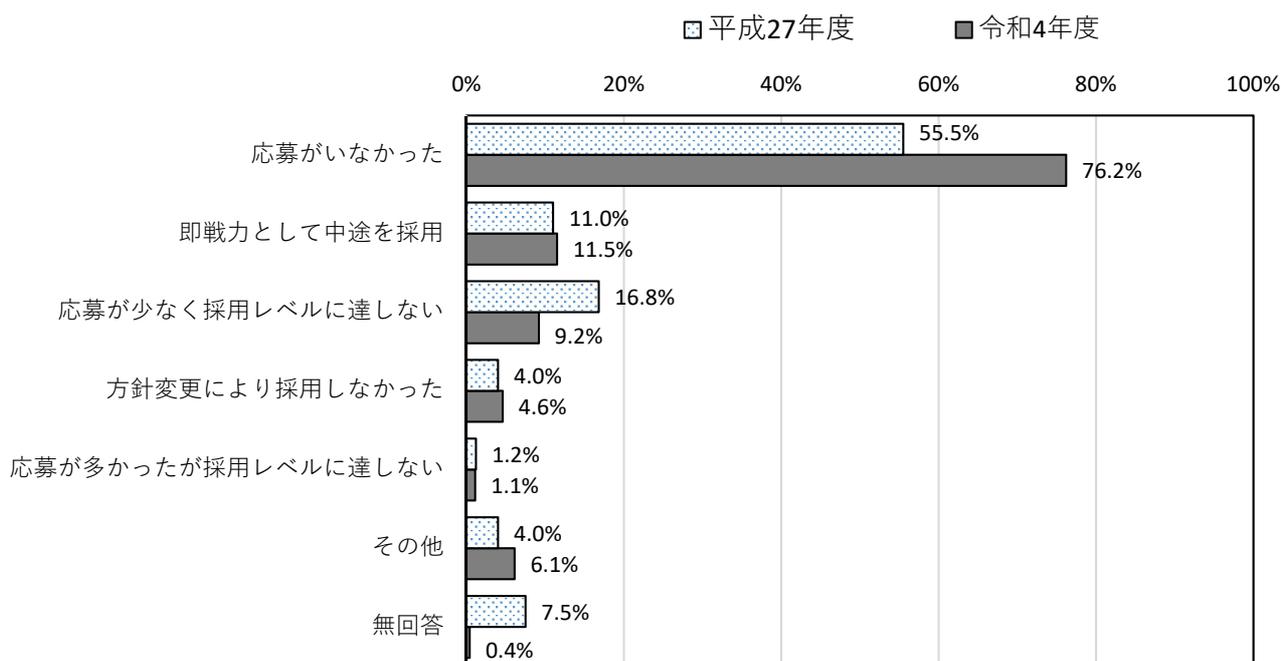
図表9-1 新卒者を採用しなかった理由



●令和4年4月に新卒者の採用予定があったが、採用できなかった理由（複数回答）

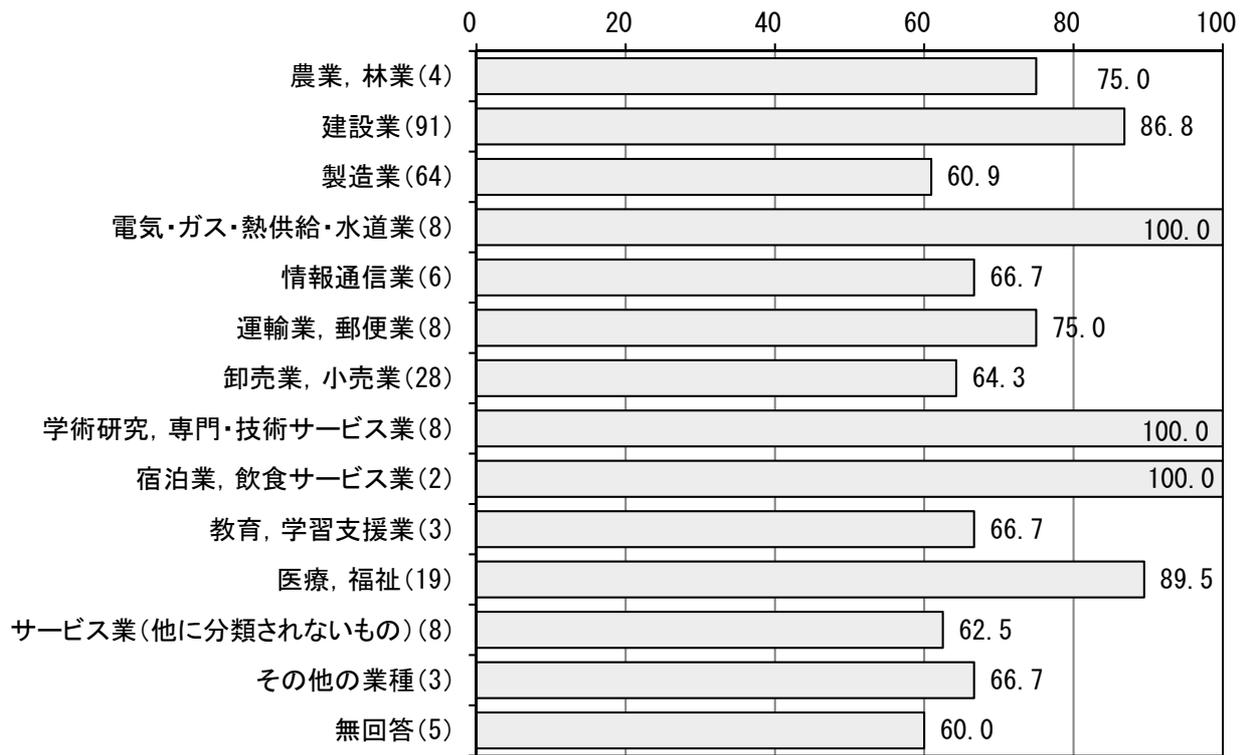
- 新卒者の「採用予定があったが、採用できなかった」企業の理由として、最も多かったのは「応募者がいなかった」（76.2%）である。次いで「即戦力として中途採用を優先した」（11.5%）、「応募者がすくなかったので採用レベルに達する者がいなかった」（9.2%）と続く。
- 平成27年度調査と比較すると、「応募者がいなかった」が55.5%から76.2%へ20.7%と増加した。新卒者を募集しても応募がなく、採用が難しくなっている企業が増えている。
- 5社以上の回答のあった「採用予定があったが、採用できなかった」企業のうち、「応募者がいなかった」企業の割合を業種別にみると、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「学術研究、専門・技術サービス業」で100%、「医療・福祉」が89.5%、「建設業」が86.8%、「運輸業・郵便業」が75.0%と高い割合となった。
- 「採用予定があったが、採用できなかった」企業のうち、「応募者がいなかった」企業を従業員規模別にみると、「30人以上49人以下」が85.7%で最も高い割合となった。

図表10-1 新卒者の採用予定があったが、採用できなかった理由（経年変化）



(R4 全体数：261社、H27 全体数：173社)

図表 10-2 業種別 新卒者採用予定があったが、応募者がいなかった割合 (%)



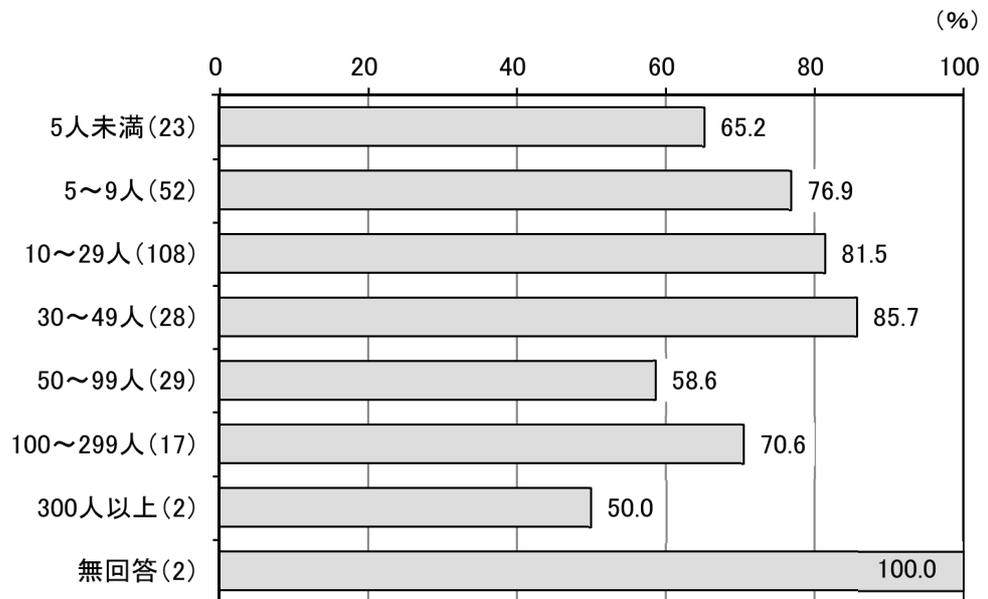
(社)

(全体数 : 257 社)

※括弧内の数値は「採用予定があったが、採用していない」企業数。

※回答数 1 社の業種を除く。

図表 10-3 従業員規模別 新卒者採用予定があったが、応募者がいなかった割合



(社)

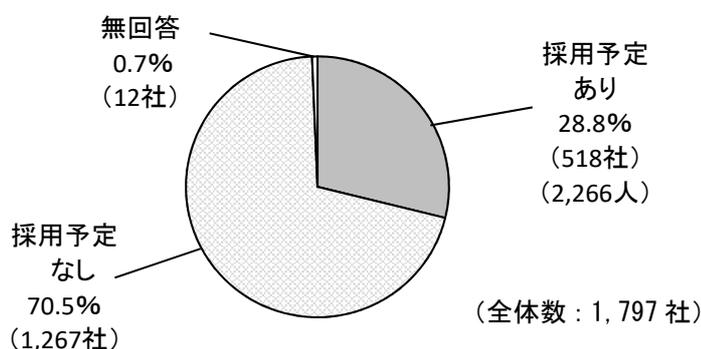
(全体数 : 261 社)

※括弧内の数値は「採用予定があったが、採用していない」企業数。

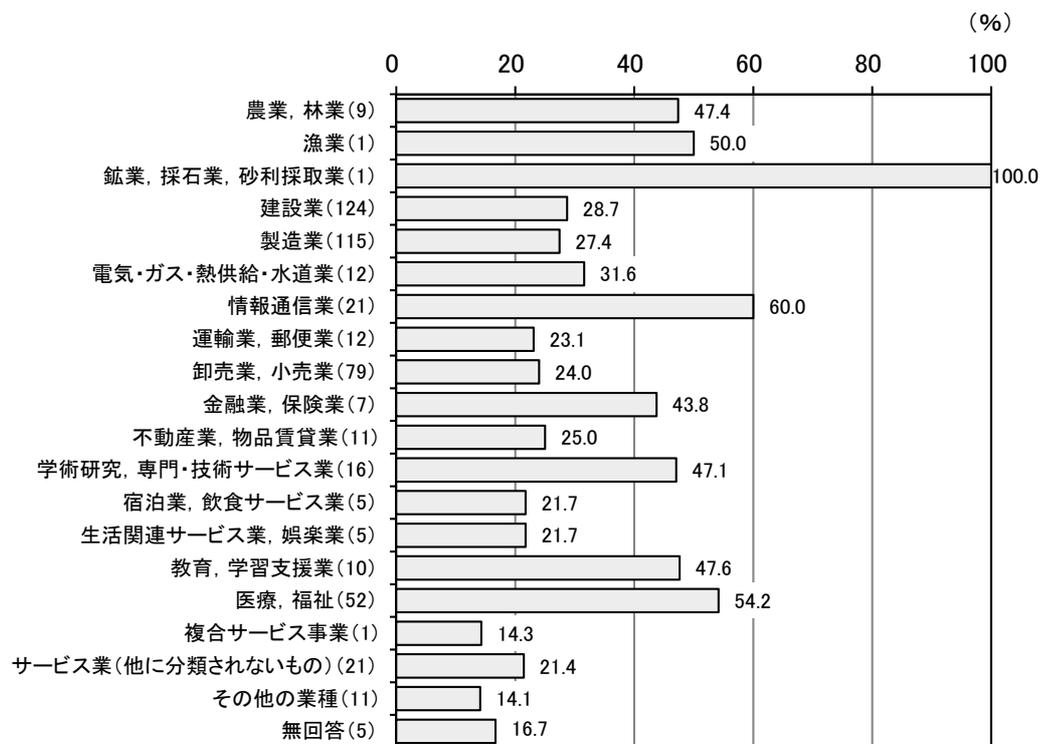
イ. 新卒者採用予定・採用活動について

- 令和5年4月の新卒者採用予定は「採用予定あり」(28.8%)、「採用予定なし」(70.5%)となっている。
- 令和5年4月の新卒採用予定人数は2,266人となる。採用予定人数が最も多いのは「医療・福祉」(560人)となり、「製造業」(462人)、建設業(430人)と続く。
- 理系・文系別の採用予定人数では「理系・文系は問わない」(74.0%)が最も多く、「製造業」、「建設業」では「理系」の採用予定人数が多いが、理系・文系を問わない採用枠も多い。
- 令和5年4月の新卒採用予定人数を、従業員規模別でみると、従業員数が多い企業ほど、新卒を採用する企業の割合が多くなっている。

図表12-1 令和5年4月の新卒者採用予定



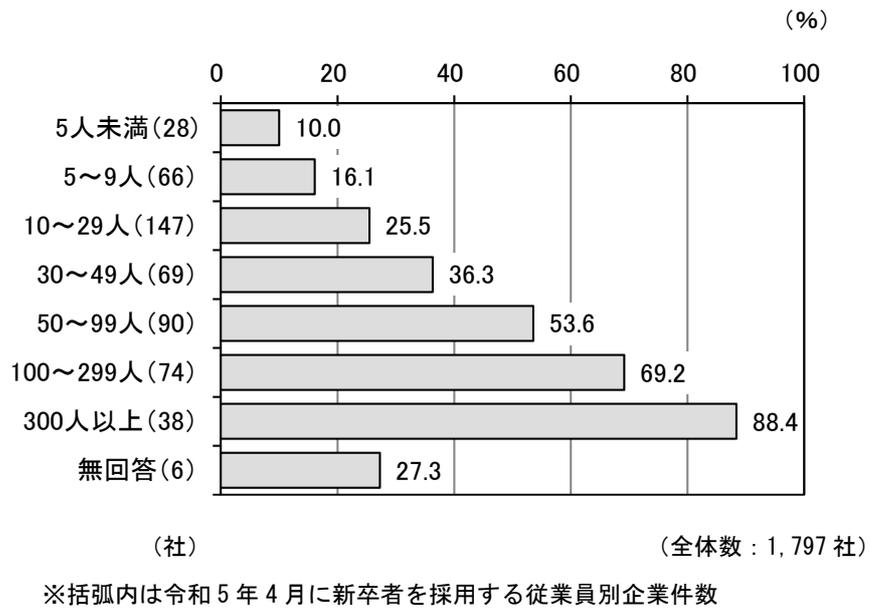
図表12-2 業種別 令和5年4月に新卒者を採用する企業の割合



(社) (全体数：1,797社)

※括弧内は令和5年4月に新卒者を採用する業種別企業件数

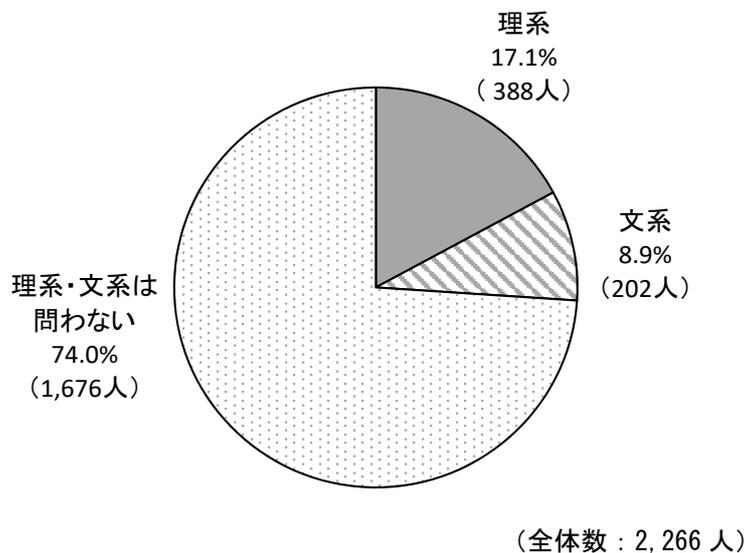
図表 1 2 - 3 従業員規模別 令和 5 年 4 月に新卒者を採用する企業の割合



●令和 5 年 4 月の新卒者採用予定<理系・文系>

- 理系・文系別採用予定人数では、「理系・文系は問わない」が圧倒的に多く、理系・文系にこだわらない企業が多い。また、平成 27 年度調査と比較しても、理系・文系・不問の割合にほとんど変化はなかった。

図表 1 3 - 1 理系・文系別 新卒者採用予定人数



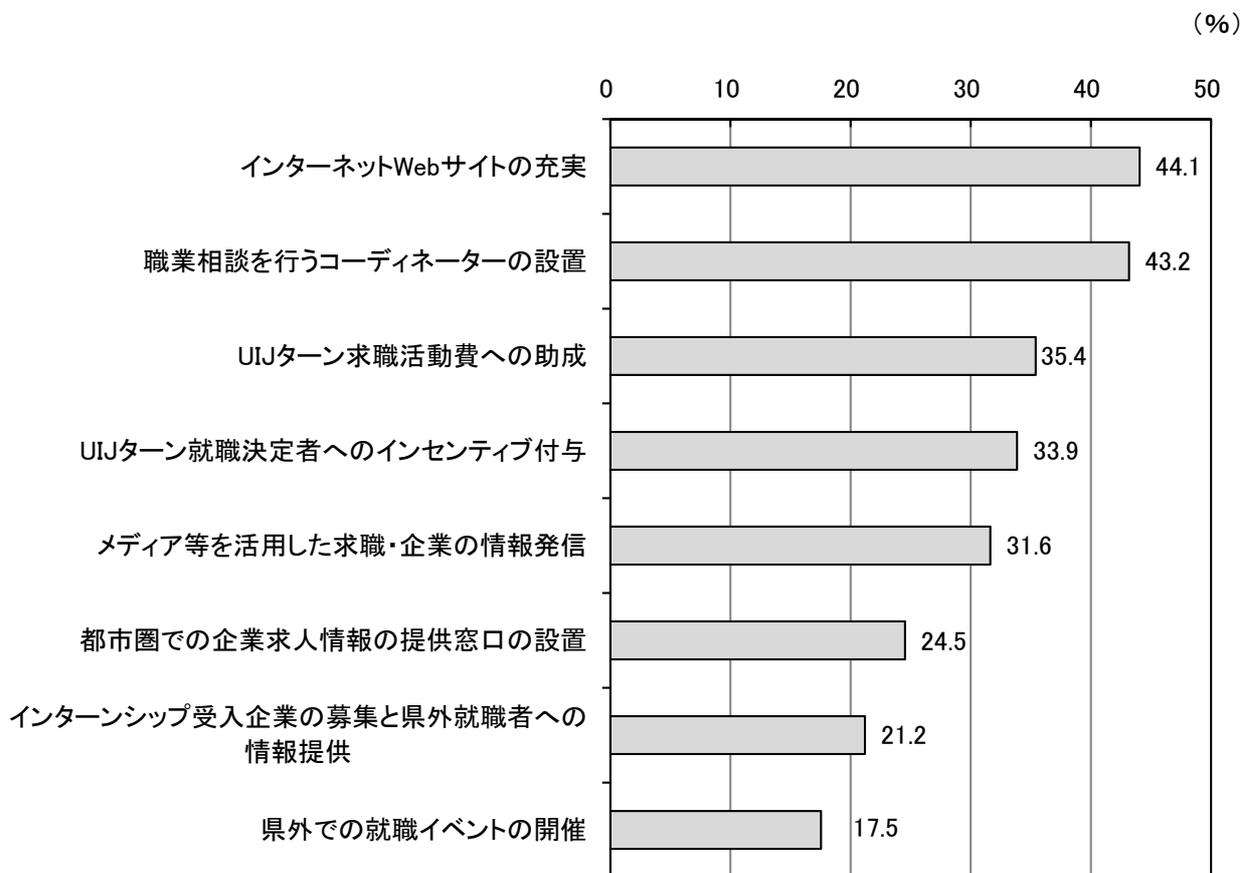
(4) 今後の採用活動について

●浜松市に期待すること

今後の採用活動を行ううえで、「浜松市に期待すること」について、1,797社のうち「特になし」、「無回答」を除く 901社から 2,265 件の回答があった。

- ▶「浜松市に期待すること」は、「インターネット Web サイトの充実」(44.1%)、「職業相談を行うコーディネーターの設置」(43.2%)、「UIJ ターン求職活動費への助成」(35.4%)、「UIJ ターン就職決定者へのインセンティブ付与」(33.9%)、「メディア等を活用した求職・企業の情報発信」(31.6%)の順となる。
- ▶業種別と従業員規模別ごとの集計に加え、業種別と従業員規模別のクロス集計を行い、付表を添付した。(次ページより添付)

図表 18 浜松市に期待すること

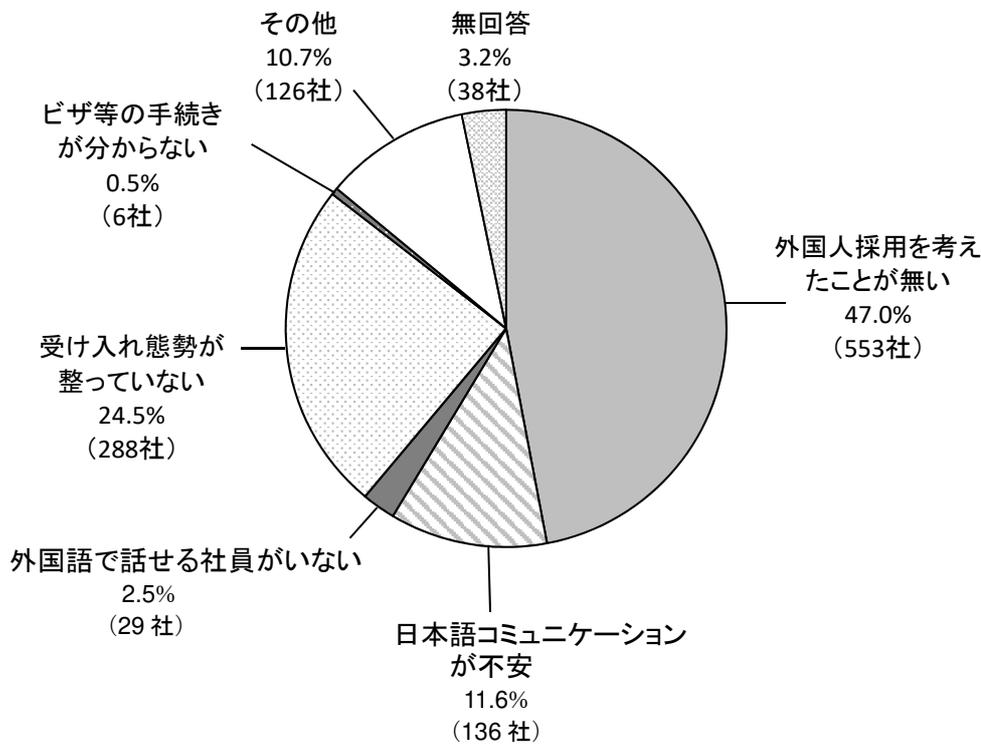


(全体数：901社)

●外国人材の雇用予定がない理由について

- 外国人材の「雇用予定がない」企業において、その理由としては「外国人材採用を考えたことがない」(47.0%)が最も多く、「受け入れ態勢が整っていない」(24.5%)、「日本語コミュニケーションが不安」(11.6%)が続いている。
- 業種別で見ると、ほとんどの業種において「外国人材採用を考えたことがない」が「雇用予定がない」理由の主な要因となっているが、「宿泊業・飲食サービス業」においては「日本語コミュニケーションが不安」が突出して多く、「医療・福祉」においても要因として最多の割合となっている。
- 従業員規模別では、規模が小さい企業ほど「外国人材採用を考えたことがない」の割合が高くなっているが、「300人以上」の企業は「外国人材採用を考えたことがない」「日本語コミュニケーションが不安」の割合が共に40%と高くなっている。

図表 2 3 - 1 外国人材の雇用予定がない理由



(全体数：1,176社)

■新卒・中途採用に関した浜松市への要望について

採用活動に関する要望として、行政 Web サイトの充実、職業相談を行うコーディネーターの設置のほか、UIJ ターン求職活動費への助成など経済的な支援を拡充する意見や実施している施策を広く周知してほしいという期待の声が多かった。ヒアリングでは、就職情報サイト利用料の助成などの要望も聞かれた。また、採用活動に関する情報や企業の情報だけでなく、浜松市として街並みやインフラ、子育て支援や医療費負担など、直接的に雇用に影響しないと思われる部分の整備、制度拡充を進めた上で、県外の若い世代に魅力を発信することを求める声が聞かれた。

■その他

コロナ禍においては、訪日外国人も減少し、外国人採用にも苦戦したが、日本人の採用が進まない状況下においては、今後は再度外国人の雇用を増やさざるを得ない。一方、過去の採用時においては、トラブルの発生や管理面の難しさなども雇用維持の障壁となったという声は多く、外国人の雇用に対する行政支援を求める意見が聞かれた。

第3章 まとめ

本実態調査の対象は、「浜松市内高校」・「静岡県内大学・浜松市内専門学校等」・「静岡県外大学」・「浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生」・「浜松市内企業就職者並びに UIJ ターン就職経験者」・「浜松市内企業」である。企業・教育機関・学生・就職者等異なる立場を対象に幅広く実態調査を実施し、多様な観点からデータを収集した。あわせて、回答者の中から抽出して県内大学、県外大学、市内企業への訪問ヒアリングを実施した。調査データとヒアリングの結果を合わせて分析することにより、浜松市における UIJ ターンの実態をより詳細に把握した。

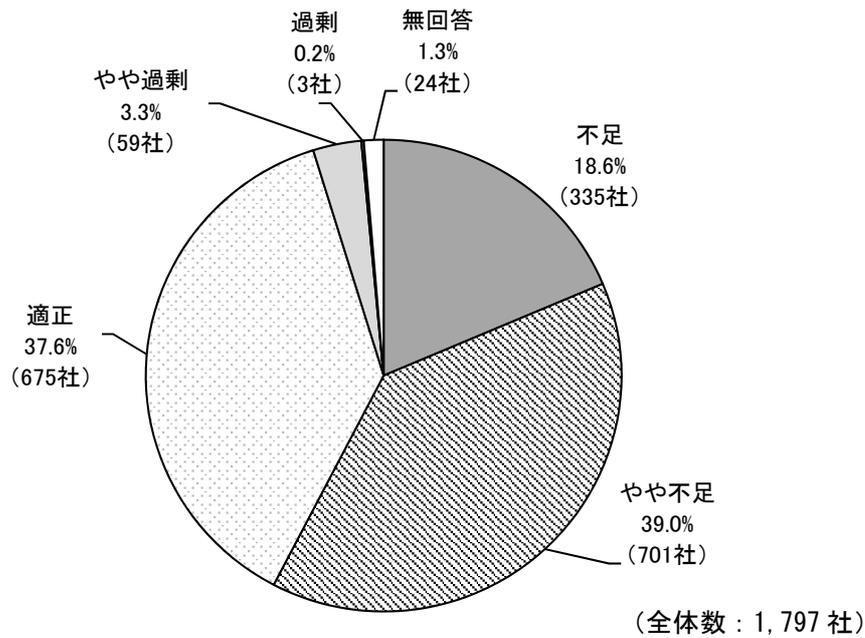
本章では、調査結果から「浜松市内企業の雇用状況」、「浜松市内就職者の状況」を把握した上で、「新卒者における UIJ ターンの実態」、「中途者における UIJ ターンの実態」を取りまとめた。

また、各調査で得られた「浜松市への意見・要望」についても「現場の声」として記載した。

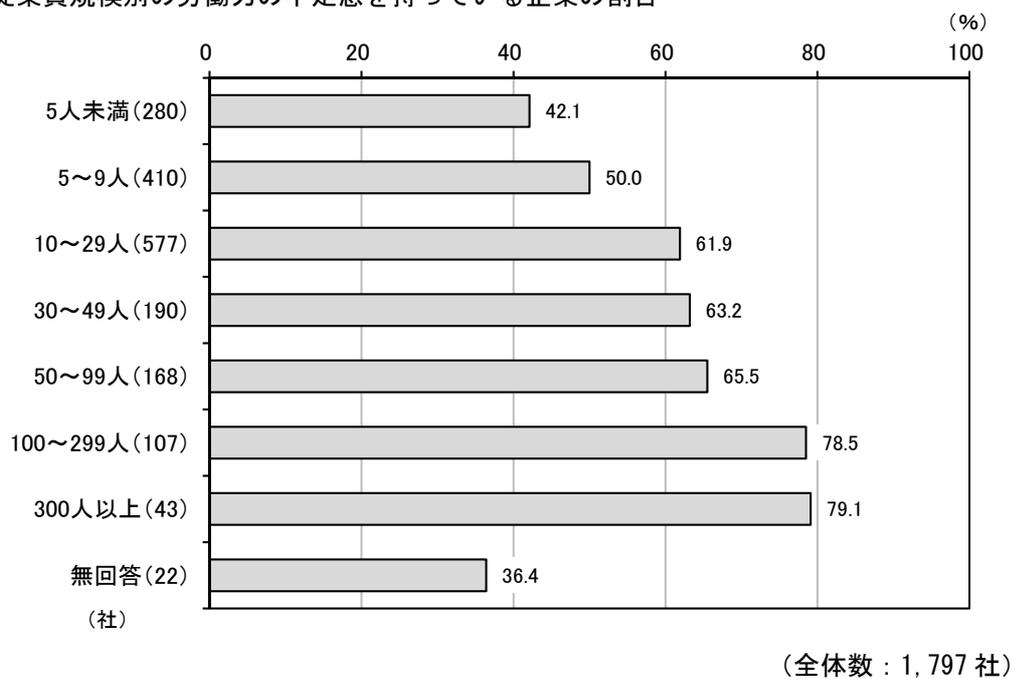
2. 労働力の過不足感

浜松市内企業全体の雇用状況については、「不足」、「やや不足」を合わせて 57.6%と半数以上の企業が労働力に不足感を持っている。従業員別に見ると、従業員規模が大きいほど労働力の不足感を感じている企業が多い。

図表 2-1 浜松市内企業の労働力の過不足感



図表 2-2 従業員規模別の労働力の不足感を持っている企業の割合



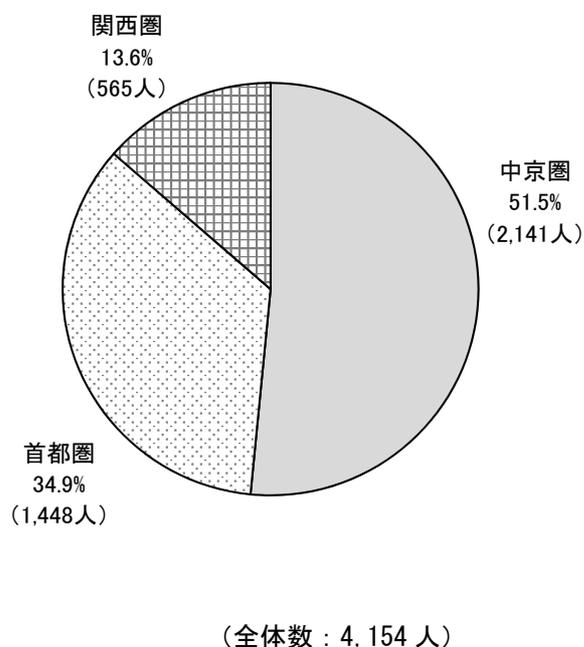
3. 静岡県外大学在学生の浜松市への就職傾向

浜松市出身者の進学した県外大学の所在地別の割合で見ると、「中京圏」（51.5%）、「首都圏」（34.9%）、「関西圏」（13.6%）となる。

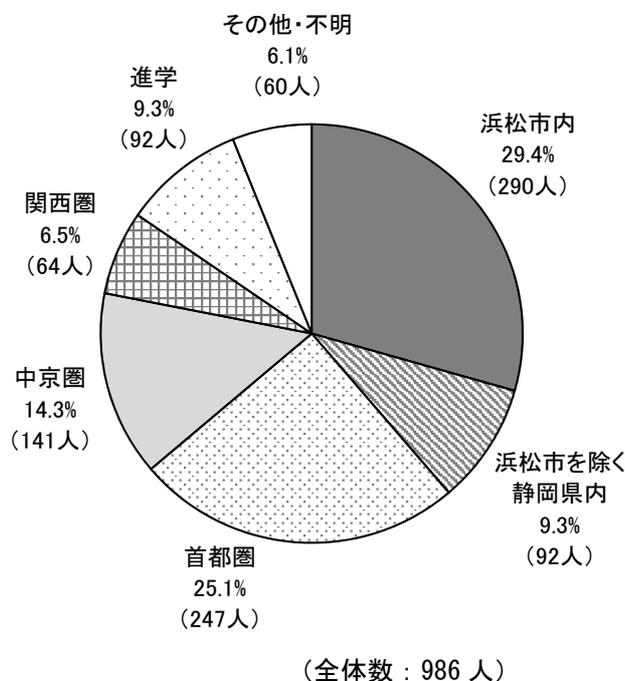
一方、浜松市出身の卒業生の就職先地域内訳を見ると、浜松市にUターン就職した者は29.4%、浜松市を除く静岡県内に9.3%が就職し、約4割の卒業生が県内にUターン就職している。

静岡県外の地域に関しては、「首都圏」（25.1%）、「中京圏」（14.3%）、「関西圏」（6.5%）となっており、約6割の卒業生は県外に就職している。

図表3-1 浜松市内出身者が進学した
県外大学の地域別割合



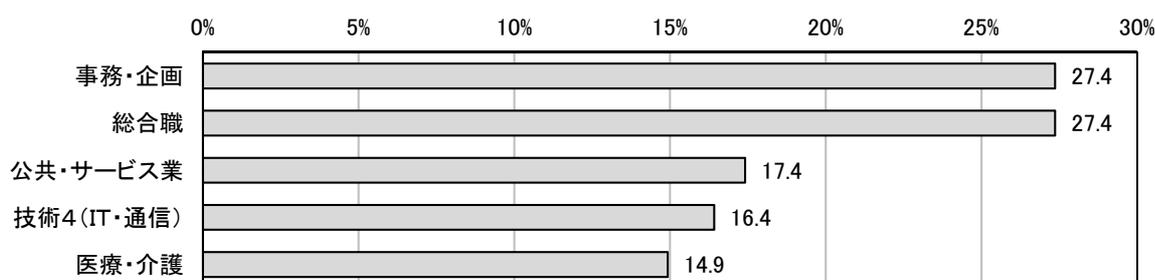
図表3-2 浜松市出身者の就職先の地域別内訳



4. 浜松市出身及び静岡県内出身大学生の就職傾向

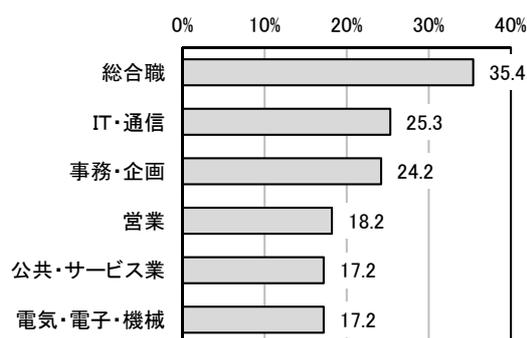
大学生の希望職種について割合が最も高いのは、「事務・企画」と「総合職」(27.4%)である。次いで、「公共・サービス業」(17.4%)、「IT・通信」(16.4%)と続く。男性では「総合職」(35.4%)、女性では「事務・企画」(30.4%)、浜松市出身地では「総合職」(27.3%)、事務・企画(24.2%)の希望割合が最も高い。

図表4-1 全体希望職種（上位5職種）



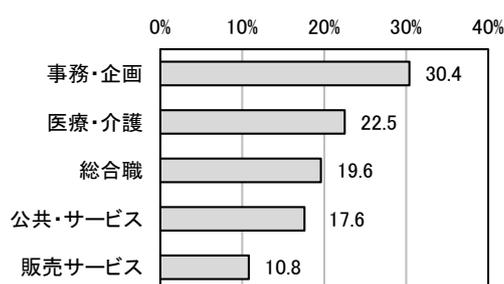
(全体数: 201人)

図表4-2 男性希望職種（上位6職種）



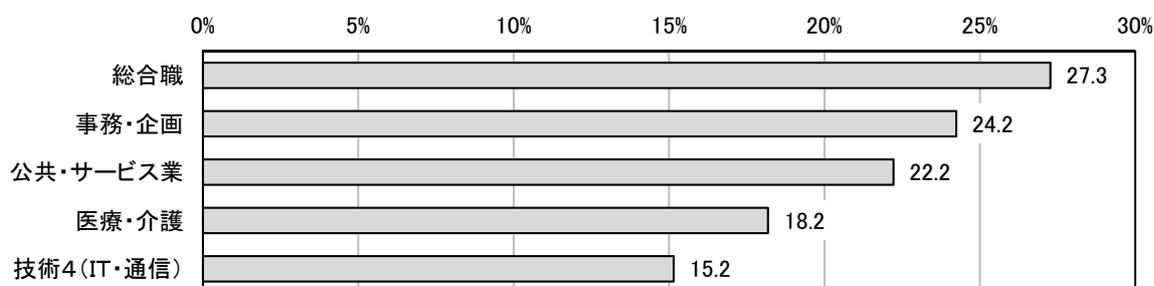
(男性 99人)

図表4-3 女性希望職種（上位5職種）



(女性 102人)

図表4-4 浜松市出身者の希望職種（上位5職種）

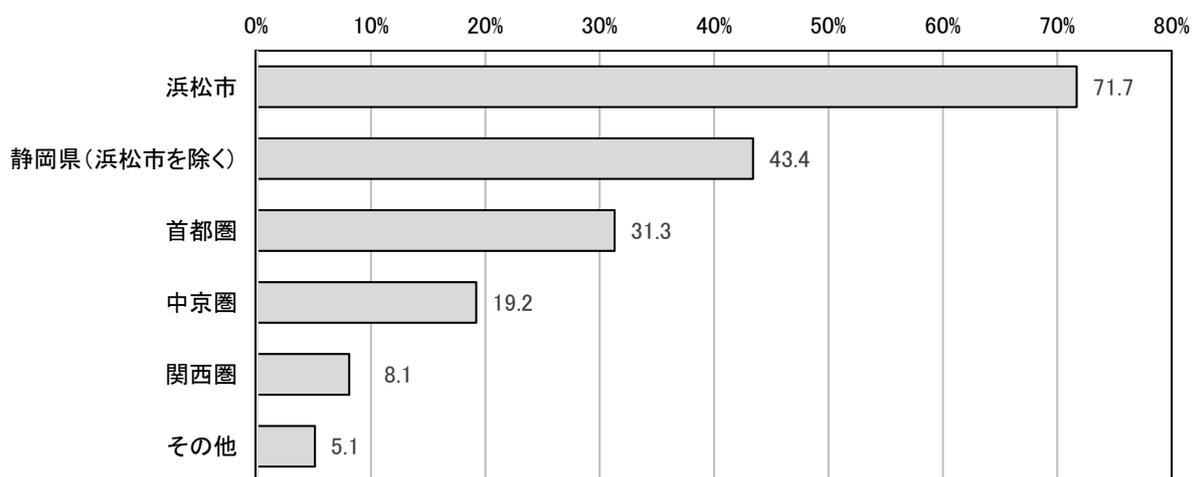


(浜松市 99人)

第3章. まとめ

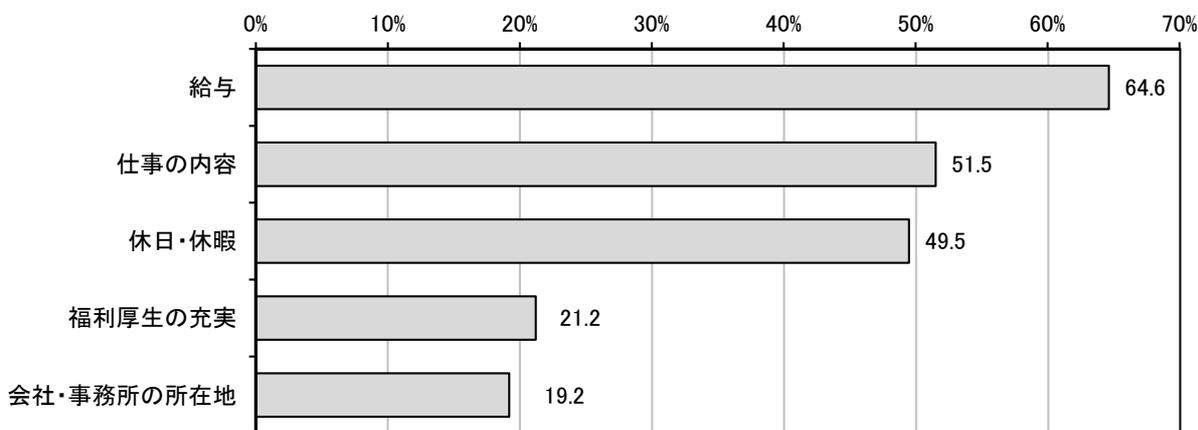
浜松市出身者の71.7%が浜松市での就職を希望しており、UIJターン意識は高い。また、浜松市出身者が就職先を選ぶ際に重視することについて最も高いのは、「給与」(64.6%)であり、次いで「仕事の内容」(51.5%)「休日・休暇」(49.5%)と続く。

図表4-5 浜松市出身者の就職先希望地域（複数回答可）



(全体数 : 99 人)

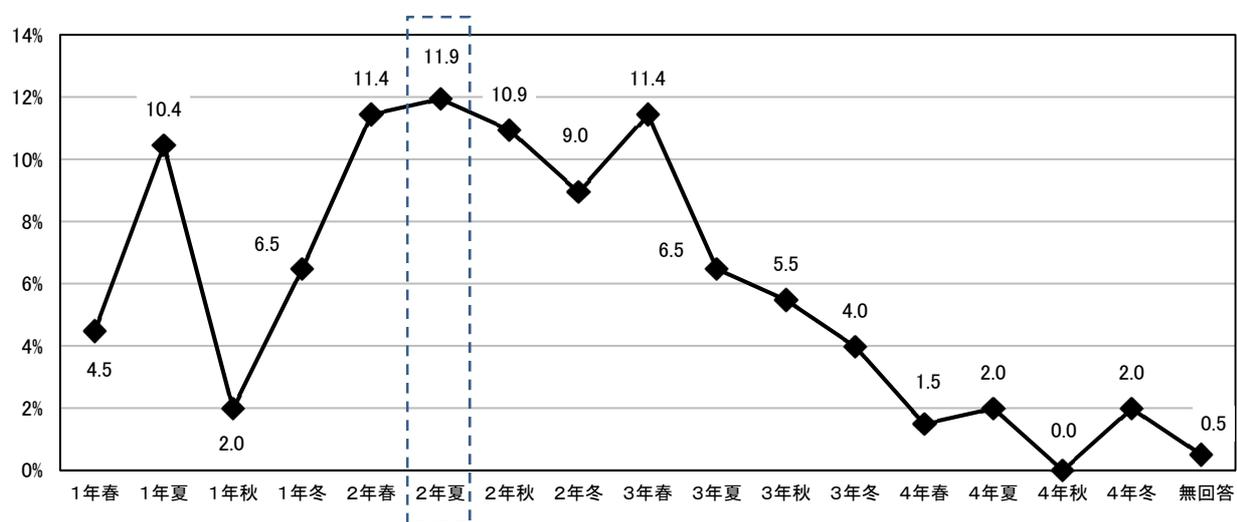
図表4-6 浜松市出身者が就職先を選ぶ際に重視することの上位5項目（複数回答可）



(全体数 : 99 人)

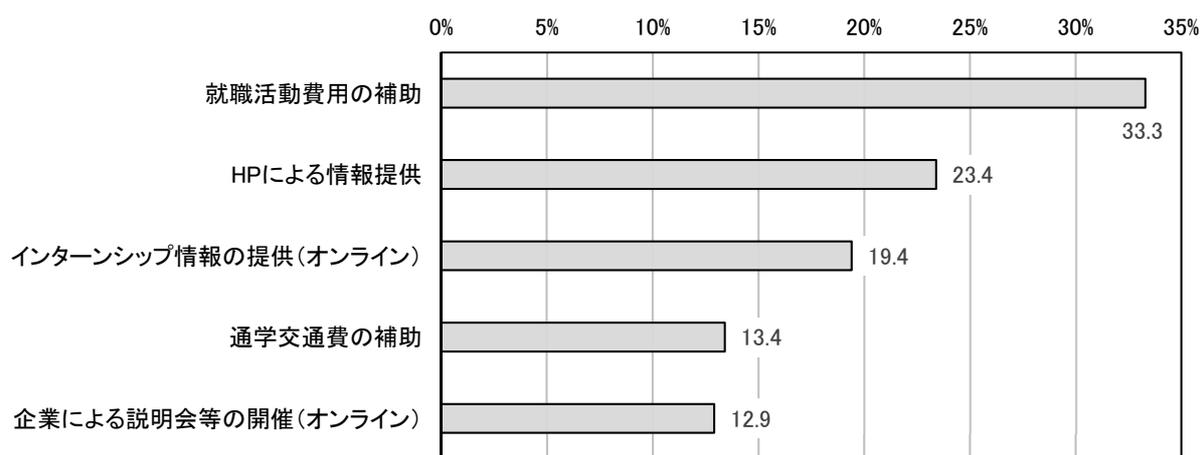
調査対象者全体に於いて、就職活動を開始した時期で最も割合が高いのは、大学「2年夏」(11.9%)である。次いで、「2年春」(11.4%)、「3年春」(11.4%)と続く。前回(平成27年度)の調査では3年冬(56.0%)が最も高かったことと比較すると、就職活動への取組の早期化が目立つ結果となった。

図表4-7 学生就職活動開始時期



浜松市へのUIJターン就職時に希望する支援・取組について、割合が最も高いのは、「就職活動にかかる費用の補助」(33.3%)である。次いで、「ホームページによる浜松市内企業就職情報の提供」(23.4%)、「インターンシップ実施企業情報の提供(オンライン)」(19.4%)と続く。

図表4-8 UIJターン就職に際して浜松市に求める支援・取組



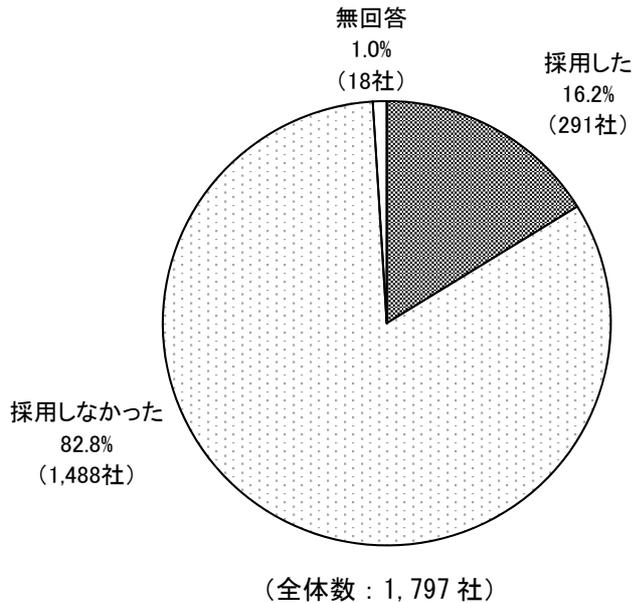
(全体数 201人)

5. 浜松市内企業の新卒者採用実績について

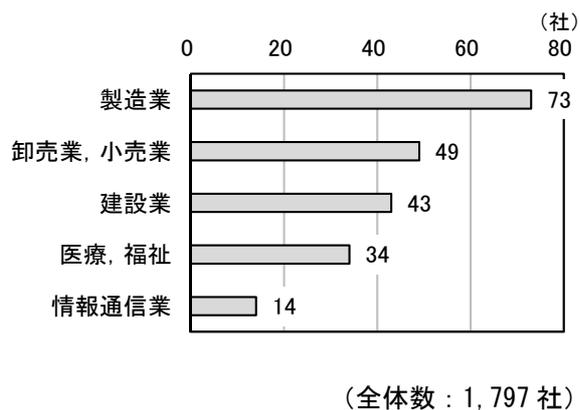
令和4年度における回答企業の新卒者の採用実績は16.2%であった。業種別に見ると、採用者数の多い順に「製造業」(73社)、「卸売・小売業」(49社)、「建設業」(43社)、「医療・福祉」(34社)となる。

また、「金融業、保険業」、「教育・学習支援業」、「農業、林業」は、企業数は少ないが新卒者採用を実施している企業の割合が高い。

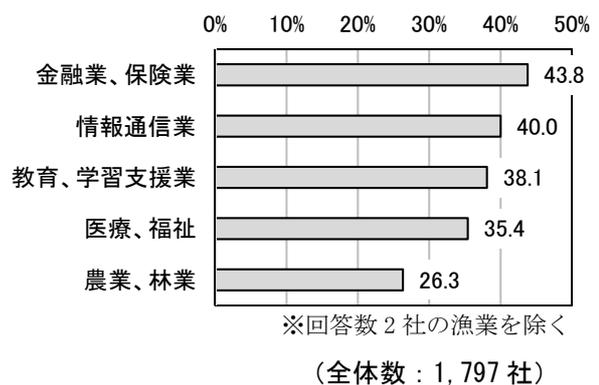
図表5-1 新卒者採用実績



図表5-2 新卒者採用企業数(上位5業種)

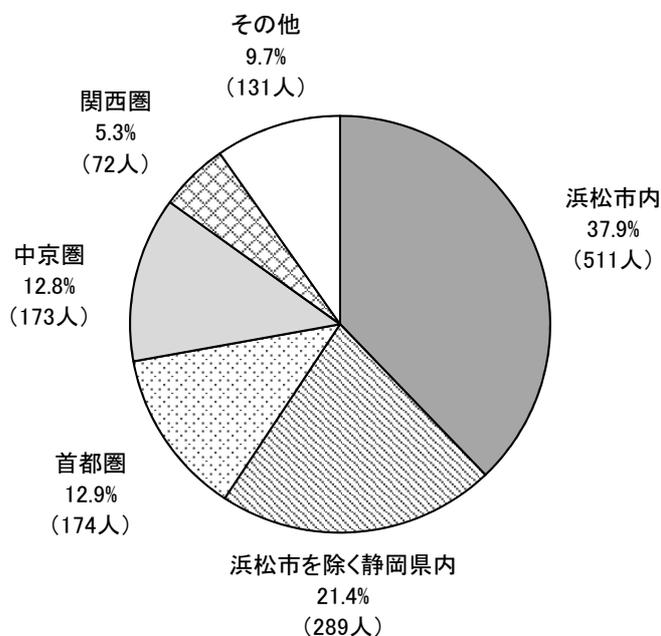


図表5-3 新卒者採用した業種の割合(上位5業種)



新卒者の出身校所在地については59.3%と半数以上が「静岡県内」で、うち37.9%が「浜松市内」である。次いで、「首都圏」(12.9%)、中京圏(12.8%)となっている。

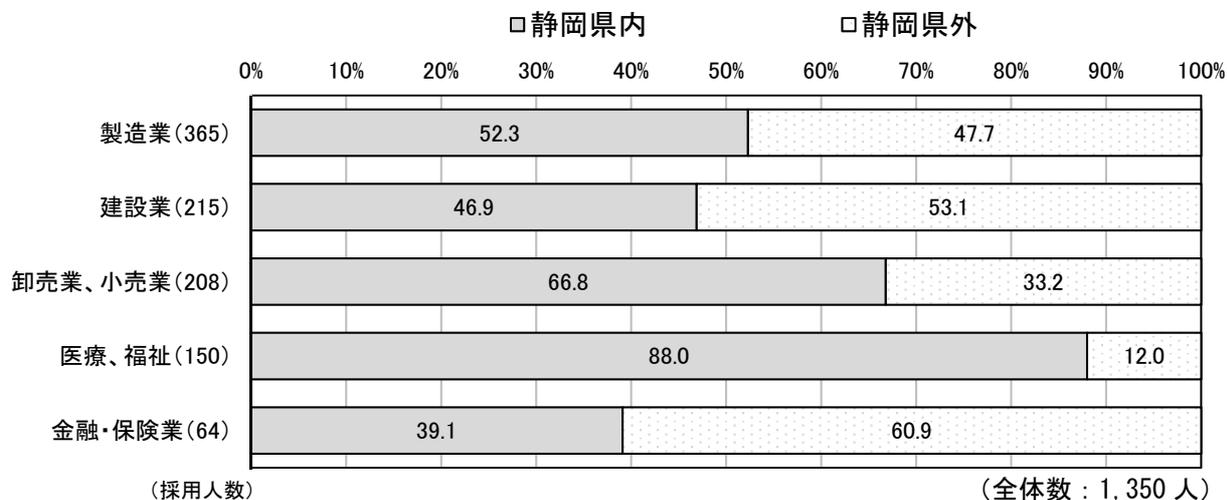
図表5-4 新卒者の出身校所在地域



(全体数 : 1,350 人)

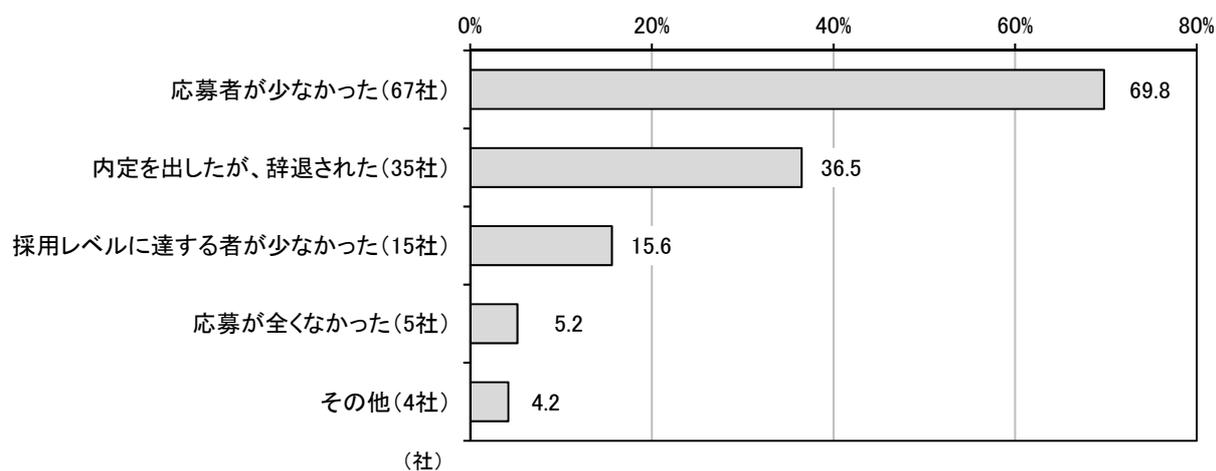
業種別の採用数では、「製造業」の365人が最多となり、次いで「建設業」(215人)、「卸売・小売業」(208人)、「医療・福祉」(150人)、「金融・保険業」(64人)と続く。採用の特徴を見ると、「卸売・小売業」、「医療・福祉」では県内採用の割合が高く、金融・保険業は他よりも県外採用の割合が高くなっている。

図表5-5 業種別の静岡県内外での採用比率 (採用上位5業種)



新卒者が「充足しなかった」理由について割合が最も高かったのは、「応募者が少なかった」(69.8%)で半数以上となっており、次いで「内定を出したが、辞退された」が36.5%となっている。内定辞退は、平成27年度調査の11.4%から大幅に増加した。

図表6-3 新卒者が充足しなかった理由(複数回答可)



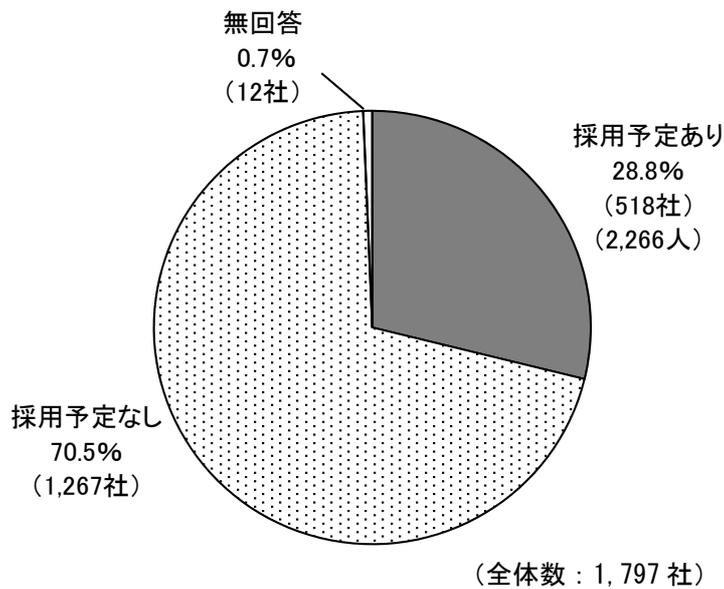
(全体数 : 96 社)

7. 浜松市内企業の新卒者の採用予定

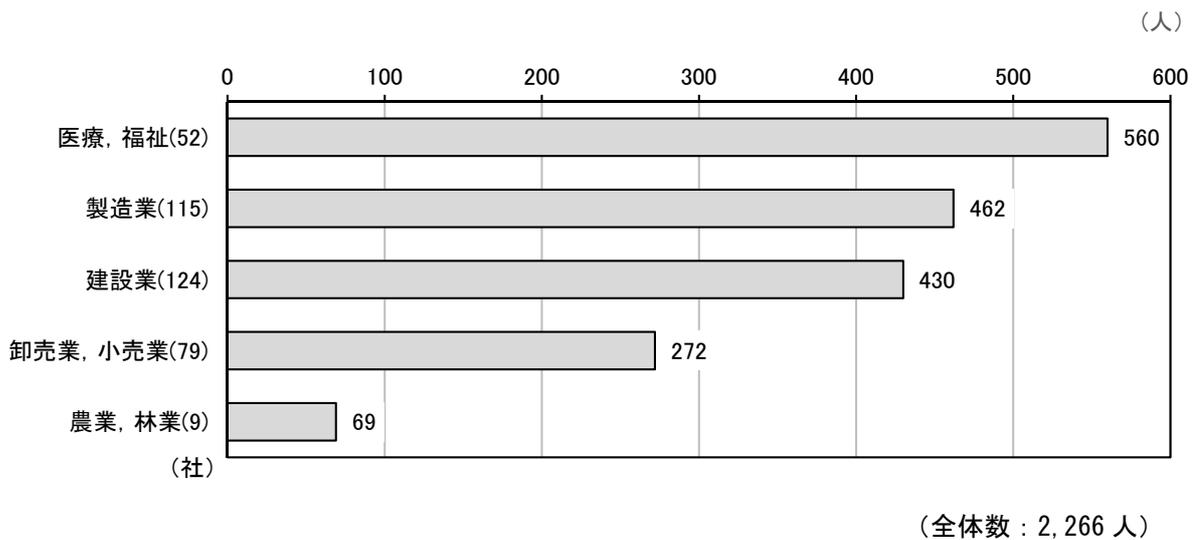
令和5年度の新卒者の採用予定については、28.8%の企業が「採用予定あり」とし、2,266人を採用予定としている。

採用予定人数は「医療・福祉」(560人)、「製造業」(462人)、「建設業」(430人)、「卸売・小売」(272人)が多い。ただし、令和4年度の新卒者採用実績は16.2%であり、特に採用が困難な傾向にある業種に関しては、採用予定があっても採用できない状況が発生することが想定される。

図表7-1 令和5年度の新卒者の採用予定の有無



図表7-2 新卒者採用予定 (採用予定人数上位5業種)

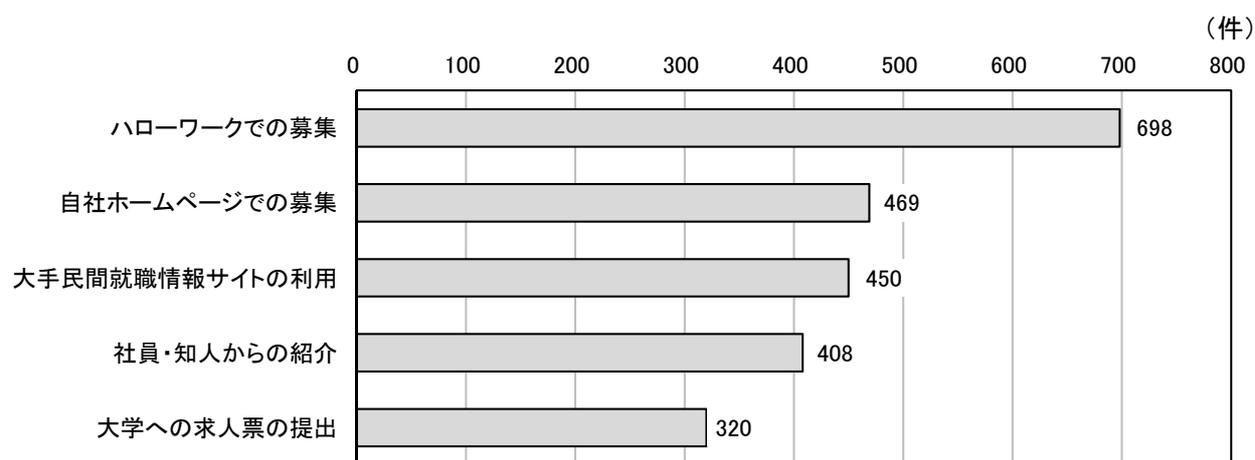


※括弧内は令和5年4月に新卒者を採用する業種別企業件数

8. 新卒者の採用活動

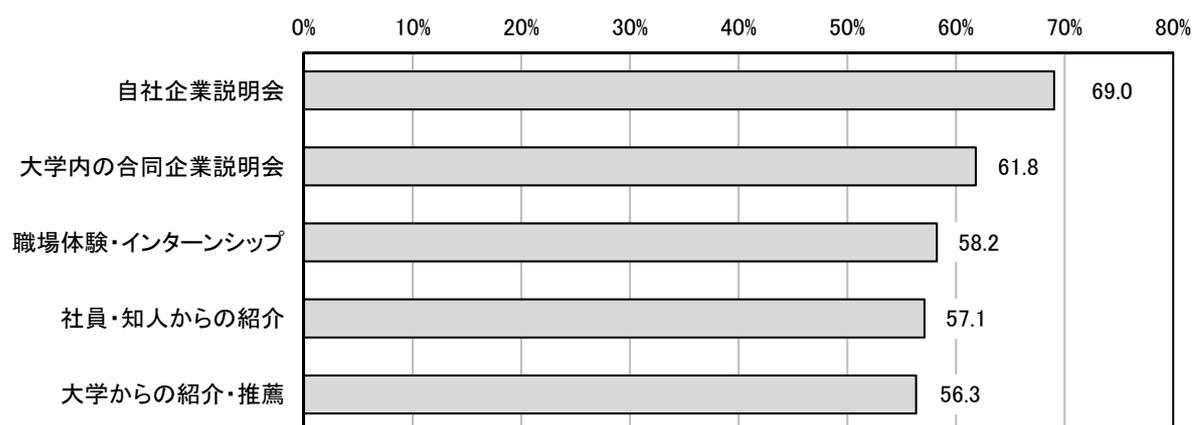
新卒者の採用活動では、実施の多い順に「ハローワークでの募集」、「自社ホームページでの募集」、「大手民間就職情報サイトの利用」となっている。実施結果について「効果あり」の割合では、「自社企業説明会」、「大学内の合同企業説明会」、「職場体験・インターンシップ」の順となる。

図表 8-1 新卒者の採用活動（実施している採用活動上位5種）



(全体数 : 1,797 社)

図表 8-2 新卒者の採用活動（効果がある採用活動上位5種）

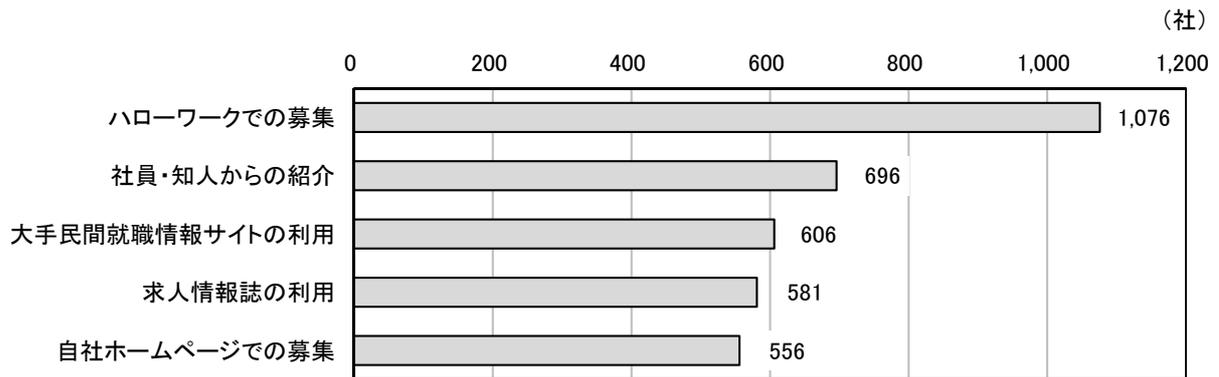


(全体数 : 1,797 社)

2. 中途の採用活動

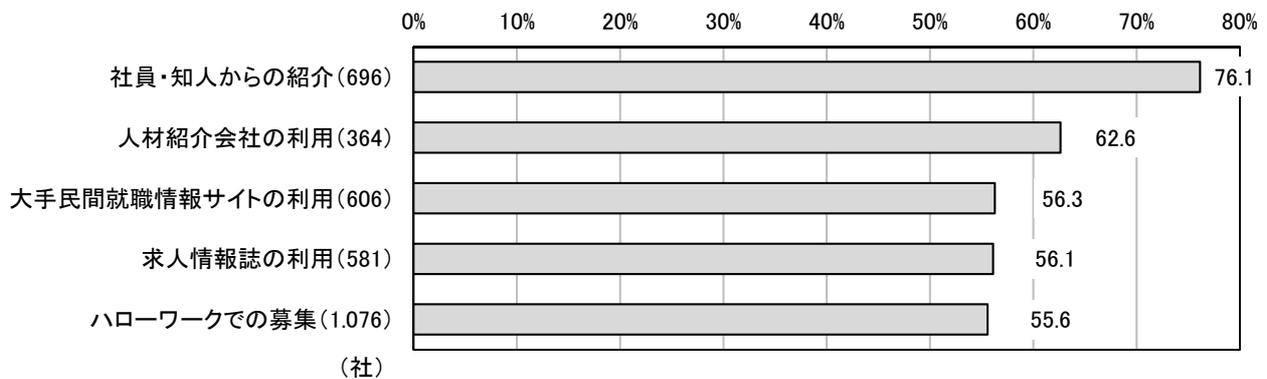
浜松市内企業が中途採用活動として「実施している」項目は、「ハローワークでの募集」、「社員・知人からの紹介」、「大手民間就職情報サイトの利用」の順となっている。効果があった採用活動は「社員・知人からの紹介」(76.1%)、「人材紹介会社の利用」(62.6%)、「大手民間就職情報サイトの利用」(56.3%)が高くなっている。

図表 2-1 浜松市内企業の中途採用活動における実施項目 (上位 5 項目)



(全体数 : 1,797 社)

図表 2-2 効果のあった中途採用活動 (上位 5 項目)



(全体数 : 1,797 社)

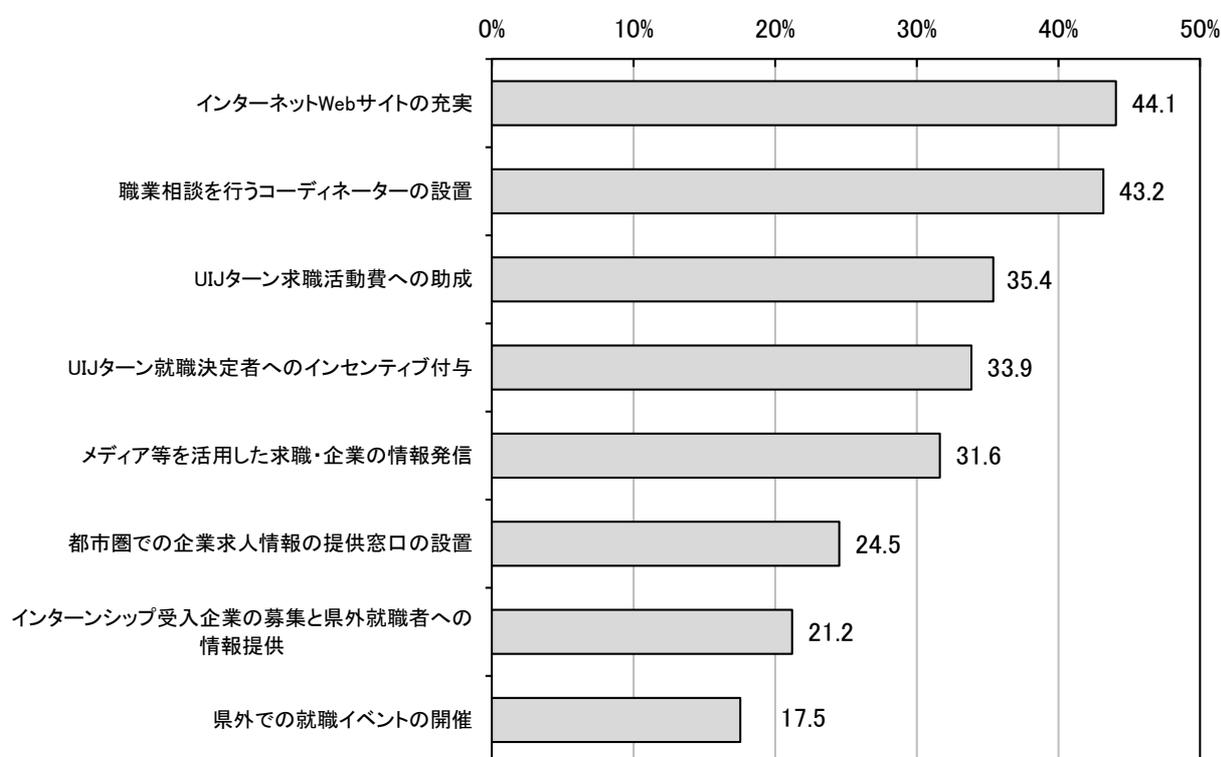
V. 浜松市への意見・要望

1. 浜松市へ期待すること

「浜松市に期待すること」について「UIJ ターン就職に関わる浜松市内企業実態調査」回答企業 1,797 社のうち 901 社から 2,265 件の回答があった。

「インターネット Web サイトの充実」(44.1%)、「職業相談を行うコーディネーターの配置」(43.2%)、「求職者に対する UIJ ターン求職活動費の助成」(35.4%)、「UIJ ターン就職決定者へのインセンティブ付与」(33.9%) の順となる。

図表 1 浜松市内企業が浜松市に期待すること



(全体数：901社)

背景③

先行する学科によっては、地元企業での受け皿が不足しているケースも聞かれる。また、都市圏の企業と比較した場合、出身地域に就職したい企業がないなどの理由から、都市圏に留まり就職する学生は多いと見られる。一方、経済環境は急速に変化しており、自動車業界においては100年に一度の変革期と叫ばれて久しい。すそ野の広い自動車業界であるが、次世代自動車分野の産業構造に関しては、現在の自動車関連業種の衰退や新興勢力の台頭などが見込まれている。自動車業界に限らず、ものづくりの世界ではIT化が一段と進んでいるほか、これらを背景として都市インフラの構造変化も求められるところであろう。

求められる施策③

若い世代にとって魅力的な産業、企業群の誘致を強化することは、県外学生の転入や浜松市出身者のUターンを促進する上で重要な施策と考えられる。自動車産業や先端技術の企業基盤がある浜松市においては、将来性のある企業と早くから関係性を構築していくことが可能と考えられ、地元業界団体とも連携した産業基盤構築やスタートアップの支援を進めていくことは効果が期待できる。

問 11. 「問 9」にて「2.採用予定がなかった」と回答した方にお伺いします。選択された理由について、あてはまるものに○をつけてください。（複数選択可）

1. 人手が足りている
2. 応募が期待できない
3. 経費面から採用する余裕がない
4. 即戦力として中途採用を補充した
5. 非正規社員を補充した
6. その他

問 12. 令和 5 年 4 月入社の新卒者（4 年制大学・短期大学・大学院・専門学校卒業者）の採用予定はありますか。あてはまるものに○をつけてください。（○は 1 つ）

1. 採用予定あり →問 13 へ
2. 採用予定なし →問 14 へ

問 13. 「問 12」にて「1.採用予定あり」と回答した方にお伺いします。「理系」「文系」のどちらを採用される予定ですか。あてはまるものに○をつけ、採用予定人数をご記入ください。（複数選択可）

1. 理系（ ）人
2. 文系（ ）人
3. 理系・文系は問わない（ ）人

※人数は概数でも構いません。

